

御仕置例類集

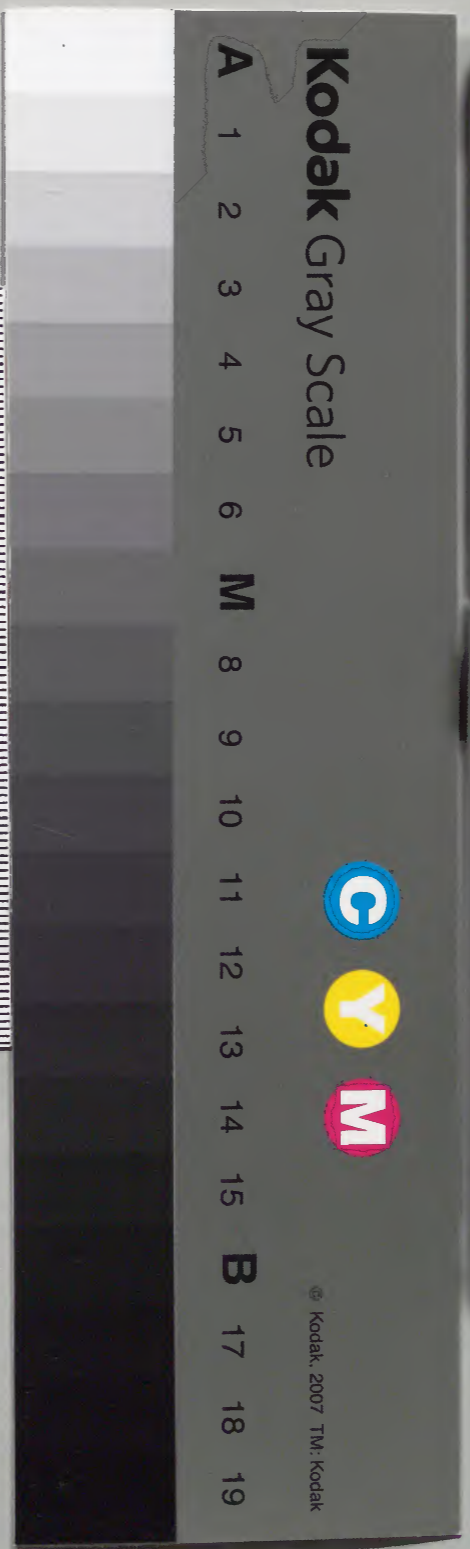
廿三

食

内閣文庫			
和	三	古	類
書	卷	五	類
類	冊	元	類
類	冊	一	類
類	冊	四	類
類	冊	一	類
類	冊	二	類
類	冊	六	類

内閣文庫	
番號	和 32657
冊數	29 (23)
函號	181 66

共廿九



仕仕例類集貳拾三之帳目録

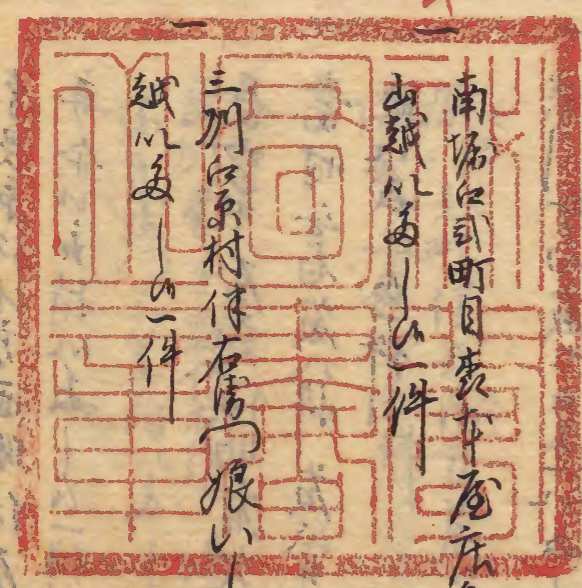
○所関而を除改山越山類



一 女成連御國而服山越山一五一件

南端白式町目表下屋座多清才三右八  
山越山一五一件

三



三 別所系村付在清山娘山一五番而山  
山越山一五一件

四

一 武州三反田村織右衛門女を連箱根御國而  
を除山越山一五一件

○持券以爲一又志携以類

五 系良京後地方西側儀屋之三帝持券企以取持以爲一以一件

六 長中帝屋發佐助后欠落以爲一以一件當時這者友八持友以帝持券又志益以爲一以一件

七 深川管白友七取逐以爲一以一件

八 甲府布施村全取帝之方在在以傳以帝盜券致附以爲一以一件

九 上野墨門町持券店去帝兵清持券以爲一以一件

十 笹屋町五丁目菱屋源七文是打源口帝事源兵清持券角以爲一以一件

十一 深川元町伊兵清方居在兵清益券持券以爲一以一件

十二 武州赤十字宿持券門後取之方之居以爲一以一件

十三 喜山小野中同源八持券以爲一以一件

十四一 音羽町在左邊門店勝五布指賣以  
五斗山一件

○限賣女之類

十五一 限賣女一件

十六一 葺子町九十市方居浪人牛尾儀  
以第石指一俵以五斗山一件

十七一 當時管右佐友介八盜以五斗山一件

○巧事取指一類

十八一 慶死押指山件  
[Faint handwritten text]

十九一 高海院宮代附節一俵一件

二十一 江別田井村百姓徒黨人教一件

二十一 上総國世富村糸八指賣又を押込人  
教以五斗山一件

二十一 領主不吟條節者一七のを定稿と為連退  
又八俵一俵未申五斗山一件

二十三 小日向菅川町伊之助俵音指何六丁目仁兵衛  
を及教害山一件

三十四 三河守友田美来次郎八十八盗又志人  
殺二件

○大冨盗賊之類

二十五 下柳原岡町中、助母以よをり  
以多一以件

二十六 女盗賊連至、候後候

二十七 武州旭倉宿旅籠屋七把飯賣女  
金盗、盗火、火、以多一以件

二十八 羽州大山村重彦、婦以補盗以多一  
一件

二十九 大冨役一柳、吉中役屋敷、番人利八、  
居、女一、野盗又、大、以多一以件

○盗物怪及取扱之類

三十 室名侍、盗以多一以件

三十一 尾州、室名、入、盗、以多一以件

三十二 十川、助、盗、以多一以件

三十三 芝、室、金、五、盗、以多一以件

三十四 水、人、女、五、盗、以多一以件

三十五 佐州大和田村江次兵清國割く山次銀化  
國口ヲ持おと企し一件

三十六 主人掛先し金銀盗取し一件

三十七 勢州宇治山田之右兵捕以江省春助盗以  
取し一件

三十八 江省新新盗以取し一件

三十九 江省因吉盗以取し一件

四十 江省野全次郎盗以取し一件

四十一 江省伊助盗以取し一件

四十二 越後江省久新盗以取し一件

四十三 尚侍江省文五郎盗以取し一件

四十四 駿州江省清八盗以取し一件

四十五 大裾町七兵清辰新六盗以取し一件

四十六 當付江省孫吉和吉人盗以取し一件

四十七 野本村江省伴七盗以取し一件

四十八 江省若無湯飯見孫兵清方占這入盗  
以取し一件

四十九  
深川等常力而盜又々申辨場正之入  
情契以多一件

五十  
勢州山田町古捕以等者虫移盜以多  
作一件

五十一  
當時等者甚助先是物取勤以良盜以多  
し一件

五十二  
幸子等者今去吉五帝盜以多一件

五十三  
佐間村等者依五帝盜以多一件

五十四  
三十日堀七日三在場一元抱取人當時  
等者甚移盜以多一件

五十五  
房州等者孫左衛門盜以多一件

五十六  
上紙等者小一手甚七盜又志投大以多一  
件

五十七  
苗侍等者源人八移盜以多一件

五十八  
牛込段代町改右邊方之居山荒川源八帝  
盜以多一件

五十九  
甲州青柳村源八帝越去帝事當時等  
者彼次盜以多一件

六十  
甲府荒岩町庄助盜以多一件

六十二 麴町或所目古無傷店承春屋控九郎  
百仕業由盜以多一〇一件

六十三 中橋屋右平命事一夜五市盜以多一〇  
一件

六十四 青山屋右千新盜以多一〇一件

六十五 上野町幸目市兵衛店九助方之居以  
新八盜以多一〇一件

六十六 下谷屋右吉五市盜以多一〇一件

六十七 三河屋右右田表並以多一〇八盜又八人城  
殺以一件

六十八 大消役柳軒吉高役屋浦門番人利助方  
居以多一〇野盜又去附大以多一〇一件

六十九 駿州屋右忠彦盜以多一〇一件

七十 遠州屋右常旭附大以多一〇一件

○人二 祇附以類

七十一 泉州中心由村孫之夫下女子三人離縁之  
白紙付以一件

七十二 師小路西上入町源房母也子離縁更以先  
更白紙付以一件



七十三

内野七番町近江屋已し物文手取吉不司代  
中野浦大方中間七し物上手取為肩の  
一件

○欠之活以多し遊女の類

七十三

肥前國長崎板橋町利吉を奪集五の一件

七十四

當時常知の物事 重宝市盗以多の一件

○密通又右取持以多の類

七十五

髪を切以一件

七十六

甲州中小河原村國助娘志あつと密通の上  
貫子り及狼藉の一件

七十七

河州新花多新田惣助を打擲以多の  
一件

七十八

下総國新田村古川後右清門打擲以多の  
中五の一件

七十九

夫有し女成連退の一件

八十一

寺持し借若年し女成押与不義以多し  
怪家為及以一件

八十二

水野彈正組与刀近友守右清門右持  
取斗以多し一件

八十二  
小兒死骸を捨比との并又捨仕比との  
一件

八十三  
人違多地実との死骸石所出火葬  
比多一件

八十四  
當時菅若市依西多津新地八丁目  
發結女無傷之及上論五三紙更此件

八十五  
駿府評所町武八益比多一件

八十六  
肥前國真福寺塔頂枕林屋元着坊園  
字後石得く取中比多一件

八十七  
城州墨湯村形威寺真空吳希く法我  
お持此件

八十八  
菅若角左馬 附火比多一件

八十九  
菅若久八益比多一件

九十  
佐別小倉村久彦益比多一件  
佐味中半  
抜比多一件

九十一  
佐別中寺所觀音寺 跡海女托比多  
一件

九十二  
當時菅若依道附火比多一件

九十三

那奈川省利信務店長五并一方之居之  
宿重五并と密通以五并一件

九十四

駿府志を秘蔵者本所高田後象存  
方之居以甚三并厚銀扱以存

九十五

武別神奈川省梅助子安五并女術  
又ハ情弄以五并一件

御園和之漆波山紙以類

昭和九辰年 西渡 己六番

雨動定事行

安友海西少嗣伺

一如在連所園而服山越以五一の件

甲府金谷町

店在湯門店

云多湯娘

以収

右いとの倭子八も密通より上と誘引

お多湯湯宿に及書所を以て返り上小佛

市園而服山越以て一の候不届く付申定

と返り候より候付申す方の事伺要去辰

二月晦日宇屋敷焼し其敷を立返りし  
白親六兵衛と引渡をす

世俊本置志由定し返奴は産の処奴

八子連屋しとのをくまはゆき奴

名目白は志の産は百一第順の

中白張意もをくまはゆき奴

とのをくまはゆき奴

定るし屋しとの産産はゆき

永年し形にお成古ゆきを重キ

市仕並の由屋宇屋敷焼し第

叙を立返りし一等順のお成方之由屋

以処奴し一等順由定并例も是第

おん石中親六兵衛は引渡を一年

多々由智く叙は産を以る親六兵衛は

引渡三十日押込

評談し通海

寛政六寅年出渡

三拾番

大坂所手引付

一南堀江町丁目表本屋底寄湯又若八山  
紙以多一紙一併

白馬馬喰町町丁目

表主長存湯町町丁目

お殿

元南堀江三丁目泉屋寄湯  
支紙信屋

津田屋利寄湯日居

ちく子

此国所寄しを不承山紙了りしといふ

存しとの候為若八と密通しといふ

在り支利寄湯支紙とお渡しの及子

功指子之有吾八中取以尚表欠落也

一官表右紙以上右道節由所

如改亦有之場而山紙也

お遣以辰石屋之有奴

以彼君八階添山道を紙白表

白紙紙以上右及節之取実取不

彼元石取衆との有由定書添山

例書一内信員上ヶ谷村百姓衆八

娘ろく彼と句引何宿之山旅

新田之口五日紙五支分石見知男

長添山智也右智新之延を正性朱

一乃節不見紙以上一不し坂中

宿高換也一山方二三年も之賣

中ノ候何宿と取ろくを長正右

階添山男八海り皆夜中一平お上州

多沼村又吾勝方と近山山ヤ一山

実不不山紙也一山代も一向石存

子山山山指也一親衆八山山山

と山同之海ヶ谷後山例とん合はも

の候も昔八と密通し山山山山山

依不坊也中座以首志度也

評後一通海

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

寛政八辰年出渡 五十二番

板倉周防守候

一 三員京村伴定場娘いー口及由山  
越いーい一件

板倉主税物知り

三員 隣夏郡京村

百姓伴定場娘

口及由山を此紙に守しゆる

右いその儀親跡様お續し候所地次

江戸屋敷口にお取与存付出府し道中

信及被合口及由山と姓来り被許し由

と親通名より進上り候名前存女



服道教吳いより在口及書所を山紙以て

小の市当地に在り候所を在付を信

け候所定書と及書所を女を連忠

ひ海よりの中進教但女が故に

お渡り者し如し身分と男とを連

と身分而國所 夫は及書所を思ひ海

り又と山紙以ていとの一節定を

信しる男如し及別と有し者及

付所買不忠ひ海りいとの主と

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

一節定をいとの一節定をいとの

而定其罪之仍其死刑一為怪

焉至海島中上之海島所出之

例有之本文之通徑後仕の彼

由在の

紙に海海

...

...

...

...

...

寛政十一年江戸

波府町奉行伺

一 武政三反田村織右衛門女と運箱根御用  
所を除山越に多し二件

あな八多吉屋の知り不

武政の宛

三反田村

百姓七吉屋の店

織右衛門事

山紙の附添ありとの

さし

右のその候去の卯年一旅勢屋市

希き湯方之下女事多し多し一旅勢屋市

右のその方の泊合の旅人織右衛門占家

通等一人何中欠居等一以  
市系川有逆道御細御成万何等一也  
衣上之紙一有上等紙古傳一守一何等  
根行國所書山紙也及と女一候身不  
お舟以言中言系右御旅人等一何  
そとの何中一と渡引お欠一海一  
依始末も主人等又母有度一海一  
一女子才系一有等一有度一何等

奴

實は後行國所外山紙のり一候身

不お舟その何等一己年道中  
何何一上西替中何の候及違分是  
旅新居何古傳一抱食賣女み  
和その人候新五席一忠次席一  
渡引お違分者お何表上紙の  
道節何國所一有一候も不存新  
五席和その人一随ひ候系斗り山  
道を過り何何何國所外山紙  
等一七何外等一不不階候も何何  
遠お舟のり何等一季中欠居一

文一紙少右始末云云以紙石

有一回意及此云云並山側云云

意及此云云

紙張之海

海内之國云云

海内之國云云

海内之國云云

海内之國云云

海内之國云云

海内之國云云

享和元年以後 六十支

京町町字

一 奈良系後地方西例儀層之三帝指表  
企以取持以五 一 一 件

名任不存張僧云連云云以四圍而布山紙  
等しい云云

一 子之儀支傳書傳書云云

福与海島金子云云

紙片紙以肩大坂表云云

内名任不存張僧云連云云

在廻石力云云傳書傳書云云

依後与市買所不取海以与名強在越  
 乃而之十後之世交味冷乃上初与取  
 經入後之方其以取國所外山越以  
 其公以也一向石存以上之其稱親親也  
 其之其有之依之其同前取一其月取其  
 書中上六

世後宮之取六寅年許後市下之取

依大坂町其乃其同其公人馬管町二

其乃其同其家之長其乃其下女其乃其取

其乃其元南端其之下目其在金久其乃其信屋

津市屋行其乃其同其在其乃其い其

其乃其其乃其八其乃其取密通其乃其其利其

其乃其又取其乃其其乃其乃其乃其乃其乃其

其乃其八其乃其隨其乃其其乃其乃其乃其乃其

其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其

其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其

其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其

其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其

其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其

其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其

恭佛

伊波之海

Faint vertical text columns on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

寛政二十一年

秋九月

情更以五一又ハ推考以致

Faint vertical text columns on the left page, likely bleed-through from the reverse side.

信濃守 一ノノノノノ

寛政四子年 渡

七支

大附盗賊改

松平左衛門

一長右衛門 依助 庄 倉 蔵 以 一ノノノノ  
時 江 右 衛 門 八 伴 右 衛 門 持 兼 又 吉 盗 以  
し 一 件

長右衛門 厚 兼 友

依 助 庄 倉 蔵 以 一ノノノノ

右 七 支

当 付 江 右 衛 門 八 伴

右 左 衛 門 兼 友

当 付 江 右 衛 門

持 兼 又 吉 盗 以

し 一 件

味 け し 長 右 衛 門 以 一ノノノノ  
又 持 兼 又 吉 盗 以

右 一 支 右 左 衛 門 持 兼 又 吉 盗 以

を凍は候も其ノ如ク身分長年寒持  
其ノ因ノ由合カリ又若御弟一因取持其後  
世致一割取一ノ有以是後居方居候  
一以候石玉極月を記す

は候居方居候一ノ石持も其ノ由  
持来ノ科主モ一石履有ノ吟味書

取来云云二月夜御弟中居候  
一其ノ由一因ノ由合カリ候一也一箇一持来

一其ノ由一男取ハ持来候一ノ由居候  
其ノ由一其ノ由一其ノ由一其ノ由一其ノ由

当ノ方取ニ候一上ノ箇一其ノ由一其ノ由  
一御定ニ申上候

証候通候



寛政四年西渡

三十七番

大附盗賊改

長谷川平兵衛

一深川之右衛門七五郎以五十一の件

深川之盤町

伊右衛門右

権右衛門娘

かよ

右の村にありしもの徳浅  
をいひし

右のとの後古弓射とありしもの右修

の合より討浅と後究く編浅いし

中り多しもの右志右浅房をいひ修

の作しは始末を御より二十日の子

此後一併に因糧石傳りて合個に返

三十日申渡

伊波之海津

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政六寅年申渡 五十三返

甲府勤番支配目

一 甲府布施村合渡申一才之石五斗傳り申一鹽  
并致附之返一の件

甲府横近者所忠八右

卯七後承

定之致有以しとの

右一との後申渡を有歸し致附宅と

以し一の限石傳りて科淺之費之文

此後致有し仕形格く屋の致をのり計

三淺之補淺之し一當りいとの在淺

を以て右箇より申渡し申渡書各書之

甲上六百怪様焼く家引くのみねを打若

一西定と唯この甲印舟南之り山後山

成り成山山書舟一紙を流流と申り山

カレ候と申す十日迄急字

任候し五併

...

...

...

...

...

...

...

...

寛政六寅年山後 九十六番

古附盗賊改

長谷川平兵衛

一上野元町町中番店古市番店

共以女一山二件

上野元町町

中番店

古市番店

補

夫傳来し面びししめを伴てる玉

右くこの候又太市兵衛宅古大智人集

儀持来し一山り山附方も可有し

...

商人元也石平町に判り質入いふ一葉  
辰石平町三十日午後

此後出所も石平町に質入し

そしつ質浅貫更に情実場いせ

証以ぬいとも証違ふ事いふ事い

ふいといと自名度なり

伊波と通解

寛政六寅年正月 百部十七支

東郡町奉行伺

一 笹屋町立目菱屋源七又足打源三郎  
子源兵衛情実箇より一山件

中筋千本末入可

町中借屋

平野屋平兵衛因若

証文

井筒屋市兵衛毒

先し名情実者質いなる

まゝいふ

右いとの情実い成る事若者い解

も有い山末又市兵衛候足打源三郎事

源兵衛情実い情実者いぬい山候足更い

いそぎに及ぶるに於ては後を留る事なかりし

は後去丑年江後市下ヶ成山左田

運八市五個の元殺河橋也所加常居

在吉常事の一人後去吉常定与致友

策情来りて一は身お止旅中候以上

不取丹以連き候。是等直候所法度

候も及わ赤字等事と以て一幸辰辰不

場之身急交りてお同江後上候に江

与申上と海に候に候に是合候に海島

江後と江海

一 生清右衛門事なり候居宅と情来りて一

を元文のり若殿中江後を候牌求馬

年一人候居宅事之位居候一は月五

右之市下と情来りて一は後右之人

有る事存候中一は得右師候候

執事人候所中一は江後同右師候

なり。ハ急交り求馬年人を叫り。至

一方吟味書牛書と申上候

世候云ん所年一江後と申上候に山村

信濃守お伺ひ浅草三丁目仙次市店  
右次事及び小儀去申二可い朱定  
右次事法交お肯之並詣同根梅引級  
金元以しおおひし儀与存の元  
之儀在る箇の儀輕に申す事以し  
去辰申し儀与存の申す事以し  
押込右箇証候し上伺し趣与申上  
趣お承山例言合存候と二丁目押込  
未事年人候ハ別宅ニ在る存存知  
不及沙汰  
証候し趣承

寛政七卯年申渡 二十兩

右附盜儀改  
長谷川平兵衛

一 深川元町伊兵衛方之辰申す傍盜儀  
情状以て一上件

深川元町  
惣七右  
町段圖作

朱定事

他下しとの情状以て一上件  
之儀在る箇の儀輕に申す事以し  
右しとの儀輕に申す事以て一上件

お交ひしお上唱し情状以て一上件  
御見交

所直上船中ても博奕者いひ長もさ  
とまち促さるる更直在りいれを  
いれ海の中いれ右神に始末いれいれ  
方もいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ

いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ

いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ  
いれいれいれいれいれいれいれいれ

いれいれいれいれいれいれいれいれ

寛政八辰年申辰

四月十九日

大府盗賊改

表山源右衛門

一 武員等々名目傳右衛門 後取之方之居  
沐左衛門三笠附以之件

武員等々名目

吉原新田百姓

右衛門次書

乙 又

同人伴

乙 又

三笠附者以之件

き く

男右衛門三笠附以之件

右之の左衛門次三笠附者以之件



石正の倭方への討ち取らぬ後引續三笠附着  
以てしゆ倭人更在の辰とみ倭をま  
倭のしゆを移し居るに倭をさく  
倭を考へ懸くも程又一つ中野の処に  
倭ありて其持身とみ倭をさく  
さく倭をせり

は倭あ永九子年征倭后下ケ  
成の支博更に一ゆと尼物いぬ  
石正の事出告く倭其拾文已上  
石正の事出告く倭其拾文已上

り世り高お苗の仕立中上と海お海  
ゆ人合はとのさま三笠附く者ゆゆ  
倭はゆ月一旦若ぬの倭もさく  
何し海とみハ名とみさくハ世り

評倭一海漸

享和元年申渡

六十一番

大附益儀改

出納内記個

一書山力所申中間源八傳賣以改一此件

小若多傳組

赤門城部支配

赤若清多本不即自

依竹新裏通厚依

屋敷地也

小若武兵衛方唐

同人娘

伯父と云ふ中他おひし山内宅袋を  
傳賣秘しはをゆりては凡更二更更  
上を伝へてし一更いとの

志

海

右一との儀伯父武兵衛為道中一市右

書ハ新紙酒樽等居完納付加し其由所  
中少少も武吉勝為事一々做す所の  
中々此等々做根。宅貸まを止他所  
との尺長々お越々用事有々此由所  
一做市者處ハお住他おし一取  
こ右跡馬寒々情賣以々しは始末おを  
と納り此は右始末見更其止は始末おを  
用は身武吉勝收完後中少少以上は身  
この中々存りし右々との尺情賣お仕  
此立由はら後々後武吉勝はこ中少少此

中々此做者定加一きは後を立智のりら等  
是は以多一立は後如一做。而亦々しる々  
り中武吉勝友同住居もい々しは身在  
賣不傳身三十日押込  
け候一併一因有者不六人倒。中上  
知。中不々人。是々合酒樽は同紙等  
貸其は紙中自伯又武吉勝為事  
貸は取果不立は身同。此三十日押

込  
伊波し海漸

享和二年所候

二十日書

火附盗賊改

大河内普高伺

一音好所表左邊(店)勝市節博賣切

一件

音好所以丁目

清新店

被松書

弟世

和喜人

博賣切之(女)

右(之)の左候在物定(同)子合(加)

即(三)拾(淺)編(し)め(り)博(賣)切(合)者(交)

以上は後石廟より十日迄急字舎へ上

家へ送るは右引渡

は後石ル寅年へ此書有る舎請之相

當りぬ知申へ後石何へ返す十日迄

急字舎へ上家へ送るは右引渡

評候へ返渡

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 評候, 急字舎, and 上家）

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 評候, 急字舎, and 上家）

限賣申へ類

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 限賣, 申へ, and 類）

安永八亥年山渡

七二十番

甲府前支配例

一限賣女一併

元大星十三郎

當時岩松主君

甲州代郡三三村三三郎  
後法正七方并其妻女

みちのく

右の如く御妻并御子御孫に上賣女初め

と申す限賣女は御孫に御孫に御孫に

此の如く御妻并御子御孫に上賣女初め

けり申す定書に記し候へとの次第に合致

女御孫に上賣女一併に記し候へとの

此項不及と有る事一件の内本無  
 引高の傍に同大和倉次郎中房と  
 或是以傷病と多苦甘海りい建又  
 有る身分高由法度と限賣女とし  
 以後高由在留方之と年内傾城町並  
 の中かゝるお側を長於一産津後仕右  
 由定より高限賣女とはなしし由  
 志を自取との有由産出方答へし由  
 及万敷より上の処を返すに後い  
 聖山宮在り見合答へし由法不及  
 証候に由

右  
ニ文神飲地

信濃の方と在り

賣女

志々々菊

存しその後友岳信おの上高賣女お初  
 義お對白の方中限賣女と揚お初お初  
 有留り身也り主友岳親久に弟と相後  
 は後此定書に限賣女誘引おいよおわ  
 男お元之と辨但少い誘引おいし者の方  
 白たゆくたゆく事りいたも心以て  
 有るし由法度はとの義志一旦友岳信

おし山浮粒又張堂中勤ゆり月之下  
年之内新吉原町上為石を山張定之引菊  
甲州之定りの山張中町上之山昌三ヶ年  
し因新吉原町上為石を山張中町上  
ゆり山引渡  
評紙之山海

寛政二戌年出渡

四格五番

町奉行

池田龍海書簡

一尊子町九十番方へ居山源人年尾儀出番有  
し候ゆしし一件

飯倉町四丁目

佐吉店

長藏事

史右中合張堂中勤ゆりお名保山  
佐吉店史右中合張堂中勤ゆりお名保山

右しその候日辰年分長藏事にお

成生し女子も有し候ゆし申年八月

中分史長藏中合張堂中勤ゆりお名保山

對しし身元お通におんる客有し長藏事



出蔵し是密に賣りし縁故に南七月二  
日以今牛尾儀治市に訓深同十三日同人儀  
向ふか寄りしし儀を向儀治市に  
以知石得止り長藏方を出武州神奈  
川名高同人に捕押し始末長藏お討し  
上密に賣りし縁故にし儀方より中  
又有り月分高人情に有る方安儀成不  
届月三ヶ年、同新吉原に在り世に  
此儀又お討し上賣りしし儀の事  
密に賣りし儀に毎所座より密賣りし

ヶ年、同新吉原町に在り世に有る儀  
定見合例に返三ヶ年、同新吉原町に  
向り世に

此田儀後より同儀に算し所九十市方  
居山沼人牛尾儀成市一件、同飯倉町四  
丁目依吉店長藏書及び此仕置し儀例  
一通三ヶ年、同新吉原町に在り世に

根ら信渡の如く方許後し紙の上の云み  
祢儀まお對と上とて下中飢渴及ひ  
程に後を養ふおつ渡世後也波賣か務  
以多し儀次市より後引か途行と多き方  
いふあり後お尋ふ又念賣と云ふも  
後より由儀次市よりしを月経入の立時り  
又悟を極く上にお急と身分行自ら後をも  
より儀次市を又この後心底におつ密美  
つとしくとのと云くも後行する後お仕置  
より當り悟くは云くは後お尋ふの所歴に

祢儀の味書と紙とをハ丈中合密に賣す  
いふし儀次市をも密に云の上丈長藏  
よりより表と涼新在り此儀次市未  
りも倫道と涼と云り紙と云あり  
のり清るお初は身因及つし芝車  
所造近ありの云之儀次市身分轉立儀  
有し一層後波お尋ふ百餘念迎ふ云々  
右より祢をも連系りり各無神と云初云  
授義の合お成と云是也波因乃云々  
儀次市の中も骨合つしし此大長と云

雇系糸の途中と与え方の糸のりも  
南木も有し外にお尋ひ心慮の事尋ひ通  
お趣、身分行自の儀もいり倭次第  
をまとの波白屋をいとも替り申座  
いほ九又の中合賣女といし上六郎儀  
次郎を更しといし名客更し名所  
有信座名女飢渴といの支拂り合  
為被賣女とい通る温ホい趣り  
いり乳母と及りといの由定て人長  
病更ぬハ飢渴に及ひる程に倭も無

くお趣に渡世もは被賣女といし  
といの有由在更相いし上賣女は被  
上六郎といし波引おといの支女蔵  
いとも其所く石届ハ有馬座名女  
限賣女といし名客更し名所とい  
限賣女といし名客更し名所とい  
三年の内新吉原町にあり白屋振  
倭も有信座名女といし被賣女  
倭といし座名

江戸の海

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政四年正月 二拾貳番

系所所

黄正

一 尚付寄居坊友介八盛いふ一件

七條新地下三ノ店所

住居年々四方新屋敷

住女

其 此

和名人

*[Red ink seal or stamp]*

右ノ其の住居外局年々所居宅善居中間

彼ノ其連同人住中其寄居候々其住女

商賣人其も年々大和屋其其傍方其其

住女働い其し其候々其不持身其人其其

此の至るは世の契情所たる所なりとせし後

以後に於て尚貴人にも無し言無き方より

狂女御はしりて身も無し無き方よりせし

後にも不意にも無し言無き方より及び

言無き方より無き方より無き方より

女として科よりして契情所たる所なり

いふ契情所たる狂女御はしりて無き方より

海にそのたるとおのりし言無き方より世の契情

所たる所なりとせし方より

証候の証候

証候の証候

巧事取持し類

天明七未年出渡

申二番

大坂町より伺

一 夏死押隠の一件

田安候知

松州西成郡小長柄村

百姓十助信屋

却言申女房

夏死を打役人信屋に成候を以て  
毒を以て連痛死と知、五月に候

右との候、夏死申言申首鑑の候、申言も不

至之上候、使亦更に申言、村役人元結に候

い候も、氣し毒を以て連痛死の候、申言を以て

痛死、申言、五月に始末、不傳、申言、申言

近科五貫文

は儀爰死押忍のとのし定ハ各所歴年

五人更人仕仕定ハ商人仕業之

お見山歩子爰死と存存多し

いとの所私但人仕業と不取人致爰

死のを不辨出ふに也りと有しは右但

書に見合文し候はも信託以留意

交也り

評儀と述所

天明七年未年 西渡 申四番

天明七年未年 西渡 申四番

京形町奉行

山崎大隅守側

一系満院宮貸附筋之候身一件

泉州環水猿蓑町

和泉屋久兵衛祖母

お對貸古院文を御返不届候五  
方お取候と云

右ととの候久々取承付序仁甲お對貸

古院文お渡宮市方々取立方々候お取

及承之序目義院文之礼三して罷越の旨

形文お取孫久兵衛別家之代依各取候右

御取立方々候お取候に候も不宣の旨相

止の中を中身久命お孫十君に禮文を度  
 し候中を松本御下意に治平錢を毎々五  
 百文お渡禮文を度候お孫十君に礼  
 返し申す候事候人より申状申す候  
 中候御下意に申す候事候口候銀を申す  
 禮文を給お渡候御下意に申す候事候  
 中候口不存出お孫十君に候御下意  
 申す候事候中候御下意に申す候事候  
 事人より申状申す候事候口候事候  
 申す候事候候事候事候事候事候事候

し候申す候事候口候事候事候事候  
 此右郷に候御下意に申す候事候  
 治平拂お同申す候事候事候事候  
 未年七月三日没病死候御下意に申す  
 申す候事候御下意に申す候事候事候  
 申す候事候御下意に申す候事候事候  
 此候大隅守御下意に申す候事候事候  
 御下意に申す候事候御下意に申す候  
 文等御下意に申す候事候御下意に申す  
 候事候御下意に申す候事候御下意に申す



しお高仕万家味味書に記さるはとの  
とお附貸し古流文銀五上方へ依る  
湯跡十石止一旦お取山迄言承く於  
依る言信座のり方流揚州言根湯  
村妙恵りん合取不直の言存命にり  
三十日押込り言の言病死にをり方  
そ者り存取一件しとの言中流死骸  
五斤言  
江波の海跡

例

稲垣辰兵衛 出代友和  
揚州西成郡言根湯村  
大和屋源七信屋  
長濱屋  
妙 恵

右味味書に記さるは諸屋店三希一後妙  
恵宅に依る御張し依るお取り紙の言反  
古に因り着金言希 宛名言福代屋出  
杉田家言石馬 信合に流交言り言妙恵  
言尋り言同人言依る言取言石馬

お滞りなれば候に多しは我氣の毒は存念ナ  
 宛名といふしは家々を後候言とお采山月  
 於り忌故々名にすいふ月名は文書更借  
 方いとのとを借更はれお借及借使銀  
 子請取種利といふしは家々妙恵哉  
 底三倉口は御舟合仕り候方取町より  
 朱書に上は外にお官親不中は均一  
 評候し上底三倉お亭々運安物候  
 子も取取貸銀に泥文を候不念候  
 産山官意度也り置りりるは位候の  
 然り候中上を返請下知お所いり  
 作すい

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政三亥年出渡

三十五番

系部町奉行伺

一 白別田井村百姓統黨人教一件

関伊織知り

白別浦生初田井村

百姓惣書母

志の

和三人

*親類中初二回を以て又分親、  
夏死と因流と申渡りしとあり*

右いとの右後村方いとの尺中合他右馬を

致殺他無傷候も底履々交信右馬二

右馬に付有又赤親尺中致殺候以候と申

漸次し志の志けす申候地改役人紀

長痛死し飯中偽似飯死如し飯中初めと  
ハ也中不面くおと付一同居村拂

村倭系都町奉行別紙中上は城川内

里村百姓小四郎実母人份ハ引合

中君交母之の古ハ他在也(夏死を因

況言事海ハ倭親類中初々中任

置々中の言親々教ハ死骸見届るは

有届入亦を厭ハ村役人亦お話ハ上

訴出押張る位在也ハ元何ハ辨ハ上

為ハ中知有ハ娘系女房ハ不拂ハ

中下知有ハ以上古ハ見合はとの有也

右邊(妻系娘始ハ)此座也皆中人ハ不

拂

評後ハ海海

寛政三亥年 出渡 六十二番

古附盗賊改

相平夜登吾側

一上総國菅野村久米八幡寺又八押込人教以  
多し此一件

上総國周准郡

栗原村百姓

五右衛門母

加 女

手負の押込を以て存す  
却換使の事トテを合わす

右の如く俊福蔭寺より雇ひ申す条八分

部人要古事(別合古事)之条考證を教

害以し給ふ令子配分此の條を勿論

要古事(別合古事)ハ之の條に子負以

秀詮一旦二階に要を懸り脊負上り候と存居  
たりし因入り威威ハハ合をまを捨便し  
筋要石邊り下り返り遣上り方り三  
候如し候と云ふ事不届り申す所

此後安永三年安永中勢少懈  
却定事ありし旨に限向し上下仕置り  
付上州中野谷村百姓右多未下女き  
の候に人右多未ありありありあり  
二階分下をいさこの切敷と申す所  
二階上より下り来し中限系至右多未

史師信吉大に印敷いをも不存候事  
三月二十日押込り付し例に人合申す  
ハ西より来り威威ハハ合をい候に捨便  
し事申す口を合をい候も申す所

日押込

評候と通御

寛政三亥年申渡 八拾二番  
蝦夷の因

一領之不吟味節有しとの正定禰之内連退  
又ハ偽し候ホリ立ハ一件

箱館丹後守領分

泉州南郷中地村屋敷

治命を免因居伯母

此仕置人誦或し候有在梅る可し  
人し物よりくををかしたとの 也 人

右いとの依次右邊村拂お成跡式次第を免

候よりより居をいりて均等治命を免はも

該取斗一方儀の有し受て為る借浪多有

し一借浪の方の家を及し引立は紙お成り

一 同給保に依り存に建治帝を更七不中源  
 由次右衛門中合右衛門及治右衛門村拂に不  
 お成且おし月日と多字形質況文次右衛門  
 不認右衛門先行其と前中初中仍借券依  
 自中村中自中在處を公耦と以多中中右  
 辨況文右衛門依お巧い取中一と上味味に  
 節有に依りとり村中中中置い文又公  
 公公耦と合多取せん多取中合多中合  
 中右味味をこの道と家出い多し其  
 一 在に依り依り公對不忠仕方と不中

二 中中直放

地役況文右衛門依り存に建治帝を更七不中源  
 例書に内寛保三年武川栗原村  
 伊長右衛門中吾依り村金形方公成  
 以多し以多し右田地中吾依り存に建治帝  
 方へ公書入依り況文より以前に積り積  
 地況文右衛門金形或五分の公依り約本  
 五分金七五分公依り況文ハ中中吾方  
 依り況文より多中合右中中合金



藏清より子初に持てし服を厨子に直進  
致すお伺す吾不持し田地お為。水上不  
拂占清並湯有し之見合右家那屋  
交清并左更不持し月鞋水上致し  
又分る家出以多し不面をも東家

川拂

江波と無涉

寛政三年申酉 九十八番

町奉行  
根倉肥前守伺

一 小日向古川伊く惣儀音持町六丁目仁兵衛  
を及敷害山一併

音持町六丁目  
五郎兵衛三郎

又い夏死を内儀と申し候事  
仁兵衛書

右くとの儀當六月十九日音持町内儀  
還るる夏五郎伊之助と云ふ大勢及足跡山  
越取又仁兵衛儀も新お右伊之助と跡お  
擲と逢お果お長し御仁伊又い夏死を  
押隠お子しとの由仕書候くお誂ゆり仁

無傷若捉しぬるお成と存し連病死し  
積りお遠し倭を平立し倭民不届身尽

拂

世倭由定書親を教い死骸足届しゆ

物入ホを殿ひ村役人ホお談し上不辨

出押隠し倭民おわくハ當人を清

とるし又し夏死を押隠しゆとの

由定ハ書しゆとの由仕を附例に記す

中上の高野市左馬書多よハ又し趣

事と有解御中左市左馬中至し由

お遠し倭中直放しお成し倭とあ

世との條書し強とる又仁と無傷倭伊

とゆと強歩擲交お果し又了り管治可

伊とゆも至平由仕と成大勢しとの強

倭としし倭と月清と助兵ゆとし病死

し強と中立しゆとゆとゆとゆとゆと

と無傷由通長藏牌長しゆ仕了事ゆ

お跡ゆり大勢し強倭を二殿の仁無傷

著提しゆもゆと成と存ゆゆゆゆ

遠し倭とハゆと物入ホを二殿し又し

夏死を押隠したる所役人若由候  
上敷言心ししものそはしめりし事  
市川忠一が打殺しを傳へ候所候事  
いふ事候らば候へば果しとも勘弁立  
らざらん方申立候も有し今般し  
抄よは申申立候も候し長し申中  
お達し候申立候との事右達候し申  
定とも申合一筆怪中追放

伊波と直海

享和元酉年申候 戌十四番

大附盗賊改

園部内記個

一三河守右衛門左衛門次事十八盗又と  
人を殺し一伴

新吉京所或丁目

五人組持店

狂女屋より抱持女

客を盗賊とも存盗不覺入候し  
其をとりかたけ又右左の候に押  
とあり候に候しをとりかたけ二階控  
子を放し候とあり  
和 梅

石ともの候事三席を申しとの事  
入牢候し候に候事有し盗賊と大附  
いしと候事百人の申し候事有し候事

今山崎の主人方よりお尋ね申す候へども  
至山崎右表之節にお別帳簿を存しそのお  
持来候入候お取の旨は盗物と云はれ存世候  
お取の旨を揚代せられたるは主人方より  
整りの物と云ふ申有しは事一左右立型  
く子前等一紙之節候と別帳と云ふとの  
左様存切候事なりと配分候申すは  
右表に候入候し又云候し至金銀知り  
更にし別右帳との旨を右組との  
吹味之入候御儀も二階格子を

取し至金銀根の事ト申すは用事  
多し至は辰如し候事申すは辰申  
巧成い多し方不届月白戸拂  
指儀盗物と云存候入い多し又云  
お取し至金銀借更事候は御用事  
取申すは右二階候盗物を存する  
世儀候し配分候事候との致し御定  
多し候月迄忘事にお申すは御捕  
方との吹味之入候事候との  
為事考た免二階格子を引放事

い不届も由三座管先例に礼の意又去  
午年根座肥前子限伺の上由仕  
迄中自の靈座請長崎町右太市  
店定吉母かん紙五席吉と不届有  
い其捕いのこの交初年一と以不  
いとの長連同人教とありを襟を解く  
け込の金と多部来取出一小刀を懐  
中にとし密に繩を切逐一と一  
後五席の中追放し自の例有に世  
そのとて為逐去と在三年と示食

候と云々其事と在不足候身右例  
分俸少燈進放ともお當てり即前書迄  
急事にお當りい不届も有るは為有  
至平方は附燈進放

伊紙と海跡

火陷盜賊之類

Faint vertical text on the left page, likely bleed-through from the reverse side.

Faint vertical text on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

天明八申年古渡 二十二番

大踏盗緝改

堀常刀付

一 下柳系因明町子ノ御母いよすり

事以多し此件

下柳系因明町

伊兵衛店

子之御母

金子すり元又と盗緝ノ者トシ

之件ニモ知子スルモノ

右ノ之の儀下柳系因明町借七方借宅

多し居知ル人モ多し新吉東京町控母

屋若藏方ニ与金子すりノ取多し元

額高任事ヲ被是勢高ニ云テ受ヤ

此後傳定書  
 何れゆる町西を 敵一上  
 さハうしこのの 可拂  
 但市いふあれきおわくを敵一  
 上中直取  
 語りてりいお對  
 二條は事な又々  
 緘お金とてあはし上ハ  
 死眾  
 多る巧いも或ハ  
 人を誘引か合は  
 一の  
 但市をいひけりハハを有し思を盗  
 此のの内仕金口  
 無堂ものにて存  
 名い多し盗あ賣  
 死眾  
 拂をも又と能く金

此後傳定書  
 何れゆる町西を 敵一上  
 さハうしこのの 可拂  
 但市いふあれきおわくを敵一  
 上中直取  
 語りてりいお對  
 二條は事な又々  
 緘お金とてあはし上ハ  
 死眾  
 多る巧いも或ハ  
 人を誘引か合は  
 一の  
 但市をいひけりハハを有し思を盗  
 此のの内仕金口  
 無堂ものにて存  
 名い多し盗あ賣  
 死眾  
 拂をも又と能く金



をい証分取のもの

右に直有しむすりいふしものいふ是を  
分いむすりい悟事い同族い証言いこの直有  
産い男右伊定右引直評候仕候いよ  
すりい合い合子まままを証言い産いい人  
誘引い合い合い合産い男死罪をい  
りや男あ事産い誘りいも証言い男右科  
い産い男もい有い産い証言い証言い存  
いあしい上い有い証言い証言いい  
定い死罪いおありあそれ科い候

い男まままい附死罪おありいものい産い男  
処置い女い死罪い男い女い遠隔い  
い女例別候い直有いい男右例を密  
通い男い通い証言い男い男い今  
般いいい己い取斗い女い通い仕候  
るみい男い証言い男い男い男い死罪

例  
沙差い証言

宝曆七年六月廿日  
神田新石町  
家主  
惣兵衛右仕下女

せ 死

右いとの倭臣不所知也と密通い由し  
上三指の引丸者主人惣持金子の盗  
与忠七劫い何也金四格或五益丸因或格  
或五と忠七は水渡残或格五席下に入五  
押除い多ししに引丸の御い丸持し後  
巧成仕形也とと密通い多しし上土藏  
第何月に入五い金子盗丸い倭臣不所知  
死四取也御いとのい何也忠七劫い多  
うせ如命前後不亦右及様未い何家免

を以て遠隔り自い

去未年土井大炊次少限何い上

云者

清七女房

云者

一人

右いとの倭臣市立市に在り居い内云者清  
七と密通い多し盗渡り取清七が劫い多  
う世遠明を川城下組番長をとり去い  
戸を明し盗入衣類取付蒲巻未盗丸清  
七は水渡後丸取多し清七と夫婦

成り控又清七因右組所及寺屋上兼り表  
入は戸渡前を清七捕り切五人共入  
衣敷品は益元は辰不届存命に  
遠清の申付もの長一併くとのト  
渡山

寛政二戌年正月渡

大阪町奉行

小田切右衛守伺

一女盗緝取仕進し候譯候

*盗取申付入具致しあり仕進* 江局  
*上申辨陽新に立入盗取し候* 上  
右いその候仕進申盗以多し申付致

キ又入具し上申致し申付処如し候申付

二十日申渡又大阪三々拂申付申付

命と申申辨場和に立入又山町家表に申

明を有し内に入渡盗山辰不届申極

死四取に申付申付如し候申付遠清

世儀家印し益々致にお申りな後  
 し益々入書し上至致にお申りい処  
 かし做身あな市仕を申りみし紙に  
 市産い紙に処去し國十月入書致に  
 當りい女市仕を做評候し上致に當  
 いかし市仕を大人幼年に右限百致  
 八百日五十致に五十日迄急年と申す可  
 多し紙に市産い紙入書至致に當り  
 如き迄急年と申す人全致とてし市仕を  
 入書し上至致に當りい紙に  
 煙くこの申すを候し勿論入書難成との  
 市定も申す市産い紙入書至致に相當いあ  
 入書し上至致に急年申す致に當りい  
 とのとも前書し通大人幼年し急年別  
 百致に百日五十致に五十日迄急年申すに  
 積り以來極至い紙に仕候し紙お何い紙  
 候し紙に仕候し紙に候し紙に候し紙に  
 市仕を申りみし紙に勿論入書に當  
 りいとの入書し紙に候し紙に候し紙に  
 市公院上ハ家初大坂三々拂り付い紙

入る者より上主致しつゝ成りしもの由座しる  
一旦入る者より上主致しつゝ成りしものと見ゆ  
減仕の処入る者成りし以後又の盗り多し  
の死罪し由定る死罪におもひなり  
且又由辨場取立入所家表し戸明を  
有しし月迄入盗り多ししものし由仕  
多しるも昼夜に不限り有し処又家  
内の人等し死にえ有し煙火を盗りし  
類し由定る合右盗り科ハ入者より上  
主致しつゝおもひ多し由辨し地之細細に後

い無事多ししもの入者より上の甲付  
無事より死罪し由定る由座しる右  
條し由定る合いも死罪におもひなり  
死刑雜道とのし由座しる死罪

江波と通海

寛政六寅年中渡

九拾三番

大附盗賊改

長谷川平兵衛

一 武州檜ヶ谷宿旅籠屋跡七抱飯賣  
如よし金子盗取之海以よし一件

武州是立郡檜ヶ谷宿

旅籠屋

跡七抱飯賣

金子盗取し海以よし一件

如よし

石しその飯賣以よし初抱元賊布

入有し金九両二分取来盗取之海以

し石金子一両九五分取分ハ石し

由中仍結金并かり更以金お濟吳山板戸  
冊之さお渡抄り多分或来を頼り  
捨山版石廟身入書百日迄急牢合  
上主人海七引渡

謝後直以多し山金子償不元至  
人市仕立敵免之候も相成石戸岩  
其年以多し山その拾取以下  
定与入書致お事り以  
身入書上五十日迄急牢戸當主

人引渡  
注波之通涉

寛政八辰年注渡 六拾三番

市勘定奉行  
根巻肥前守候

一羽洲大山村重右衛門辨以利益以多し山一  
件

酒井左衛門尉西敦而  
羽洲河郡大山村  
重高百姓  
重右衛門辨

手書目を破益マシイ  
以 補

右にその候横内村共申後田村次左衛門  
宛手之書一團以山の右右負垣を破り  
這入衣敷おし益取之新高寺村長云

右邊門不六左新百姓家留多子孫子有建家  
有戸此方運入又ハ新雇ゆる形因くその見  
世に在る山同合を足合夜敷厚く九拾を  
不益を能入ホ以多し右代金五両を分余  
不沙酒食を多し拾の飯を届と月入事之上  
百日迄急字

此賊盜取の取ハ拾両以下に納方九ヶ  
右ハ入盜以多し其上右をわく内取をわき  
薄くいとも困窮を破り運入のをりを破  
りいにお當りと見盜以多しゆらハ拾中一

新し始末不恒の旨死罪

伊波川通海



享和二年市渡 九番

大冨益被改

屋形内記伺

一 大消役 柳歌吉市役屋敷門番人利八方居  
以奴し野益又去消火以多し此件

大消役

一 柳歌吉市役屋敷

組門番人利八方居

同人親多清判書

主人方形り免すを指し

ありを指し

右ととの儀田中伴在場 書とる所を以 砌

密通ハ石波の山利右衛門 口執分被

同人書このお成と難源以多し此の利

右邊の盗竊のりとの事之難後者中野の  
有元主人方由儲有し合刀有し後中野書  
こお成の処難に續右利右邊門見繼し之  
め家出後し武士方より後し一在在の  
有元主人方より勤方長支の連帯の  
以長持第の目も後却有しを明て夜  
難帯金子盗に右取を賣拂又之  
ヶ直に後支利右邊後身仕業利發  
以多しをとり還借為後家業の成  
元中野の事の連主人方より後借整の而

夜難帯毛襦風長支も盗取に直に上  
後日し味をこの直と如新屋中困本戸又  
ハ入口よりを和し之を盗緘入の難に拵  
後之務者も亦取調し初も主人も亦中野  
ハ怪しまれに後もの事とを拵し亦も  
盗取の後中野始末巧成以多し方利右  
盗緘の外今入仕業に有し方由風等  
し方一吹味之為の成と好お大有し  
右利邊の風等もお止り中野綿屑附  
亦も拵以多し中野屋根裏に附大

以美しゆゆ大立消の身又い空限全根書に  
附火のうゝを燃互の第にお成主人居宅焼  
拂い候と忍ま後悔以美し自分と探消  
しゆとハ乃甲希書之始末まゝ不届至極  
三月甲申引也上五ヶ所科書控札建  
之火罪

此儀市定書に拘るゝ火を附いとの町  
申引也上五ヶ所科書  
控札建しこの事有し候もの候と盜の  
後と火を附いとの事有し主人に不盜

名不盗緘入の御之に持ゆゆ火の及  
露取凡有し右風吹お止し候  
に附火以美しゆ候か火に紛盜の候  
と附火以美しゆも候とハ同様三月同  
に海町申引也上五ヶ所科書  
控札建し火罪

評後一西洲

盗物怪浦品取扱以致

Faint vertical text on the left page, likely bleed-through from the reverse side.

Faint vertical text on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

山田村

先の海取書に年代高安向信並古作盗物に取扱年月  
中何方不立年月等成り申元祐介の盗物に約する

昭和九辰年出渡 巳申一番

山田村何

一 江省傳彦盗物にしし一件

山田妙子町

質屋菅右衛門家

少々

右にその做賣買向の候に年代取扱書  
に在り申の得る年月何方未熟取扱書  
候に不流人へ此も其の盗物に不質物  
並に候も不存候に候申し申分と云

長中不意有雙物元上盜之口取返  
之也

以後件し内取無傍評儀事上取返去

元成年評儀仕甲上取返与雙物元上

意度也

評儀之返所

山田...  
...  
...

安永五申年出渡 拾三番

駿府町奉行宛

一尾州管入事然公帝盜以多し此件

某村友三帝代友不

駿州屋系初蒲束者

大坂屋伊信房後家兄

二居七右忠(後家)

大

右之等の儀去未十月六日長吉帝取

口品持系平公帝一被取高以存右品一

因部取の友也方口雙入以し或取を在傍

物人口お不を仍り賣拂代儀事取帝口

お渡礼銭を貰更の儀に申し与り山形有  
を帝儀に届し方分と衣敷品と所持才  
渡帳等と盗物とを極うの事と申す  
但世おとも不札賣取又ハ質入等しを  
そ上去年七月申分を帝を交り一宿為渡  
者と帝盗物とし以後為泊り良も宿銭  
貰更の儀不届直産の旨取上取不  
此後盗物と不取賣取又ハ質入等し  
をそ上おとも不知長と帝を交り  
為泊りとのとおりの南ハ直産の旨

及恒々益人々宿りし山形の一宿に  
准し衆儀不及取上取拂

法儀と御所

因宿  
衆持金印如房  
娘 人

右ととの儀きたり買取の事と盗物と者  
との事と申す味と儀取の旨と取きた  
にお返しの儀申す右御所前より申す  
その御所の御所と儀取の旨と取きた

方不念之且西座の骨きたはお渡の代銭  
換夫平月也

は倭盗物も不存買取のそのは

西上換金の中自申定西座の骨を不

お返しの骨を不御お不請も西座の骨

伺い返代請換夫平月也

倭盗物

安永五申年市渡 西指書

駿府町奉行伺

一十川惣出盗つて一件

駿府堀添川越町

市右衛門二店

吉右衛門屋

平田市一冊

五川

右しとの倭伴平田市一方は是は十川

惣出盗つて人池田五門方渡出奔の事

と不存由の由は清水合人もの事との事

叔目平田市一方は是は是より平田市合人

附五申一方もつて是は是は倭上

三十



手記并に甲の湯と出たものも不取れ也也盗  
取れぬ所も不存質使に在成後質入せし  
後より身分といふに不存し至市座の所

二十日押込

は後より市座と市座の所も不取れ也

評決の所

安永六年申渡 戌五番

火附盗賊改  
古塵帯刀付

一 芝屋合五番盗賊のしし件

京橋柳町六兵衛店

清八書

盗物とる存候に入りぬ一と掛  
賣上と更なる判を押しを存候  
き ち

存しその儀盗物といふ存候はるとも鉄

五番形に御番甲指を殺候七口入り

一 清八鉄五番五掛の賣上書付認

更法八頑筆有し有合判を押しも

不存候も存候も不取れ也

以後該五帝堂上書付在拵多合判  
を押し候へ石存おし石おれ  
一枚口入等し山帳石等石座山等  
伺し海意取也り

評文と海河

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

天明二寅年而渡 卯しき書

大前益紙致

執貝紙前子伺

一 水人安五帝益以しし件

喜母町九丁目

丸七二店

七兵衛書

加 小

酒食代紙石足有益紙と  
石存石紙紙並いとの

右しとの候打力帝安五帝酒食代石足  
三月長紙紙品部紙並三日中代抄紙  
持来紙しし長衣紙紙清紙しし山由紙  
付石遠も石し石取し紙し並し紙安五

帝益を以て其の不好の爲に其の不出も不記  
飲りて其の腹を留めんと急交也り

此後別紙より辰年より申書付を以て合

才多石お悪く物飲りて其の急交也

いふ急交也り

伊波の通海

天明二寅年申渡

卯日書

佐渡年抄詞

一修別大和田村保次喜房出割り山吹浪花  
出古の持出と企の一件

佐別雜を初取川津十帝

外吹寫右新を帝母

佐 渡

人々を以て連得の申山吹浪  
密に之をわかれもの

右にその後金右衛門に其の取連に其の切

畔新を帝より不承知に延請を畔に

合山吹浪取面と密に其の出合を以て其

を以て其格別利欲を以て其の爲も不承知

三十四

礼儀貫通いふ己の心は玉割と有る届  
三月十五日

は後一件は自徳以事かハ不恒主進

致しくお事ハ在処修明も福由を

市産山百の成丈玉を石拂板以爲し

二飛山幸福のよと格勢進致の

才自とのと浪山水整杯の才自の

三つと市産山百恒累しとの味今も

系浪山水整の才自先達と彼地へ

天の山  
市産山百の心は玉割と有る届

淑人の子ハ才自との名前ハ田畑系

屋妻系杖願和

伊波と海

天明三年正月 拾六番

大坂町奉行伺

一主人掛先々金銀盗五件

農人橋本可目酒屋

又兵衛文祝信屋

英徳金利信屋

加

取本を主人の形に  
他は為被盜西貫又も銀り

右の如きの候候を主人の形に  
右の如きの候候を主人の形に

又し候候は是より上人所持の金銀不

取趣有録取候といふ人付吏利信屋也

不月少割銀子し同貫法を所取らお

おいこし是の候候も届り月入事致の事伺

者正應永之如し候正月廿十日ノ事

は候吟味書し返るハ伊ハ川貞以也

所直根子ノ因と乃存板根或丁

南襟幸斤貫文ノ外金根取取未取

ノ山との市庄の方去寛年一幸小京伊

録事子根同ノ上市仕至尸自山只修院

免候分事録書豊田郡仁仁村甚其幸

候盜とのと乃存候ハ外或人持来以衣

取未取リ至右ノ肉衣取取京貫法

取石庵有取拂ノ中付処被病死の事

を考ノ存候一件ノその方ノ下候例

与入合はとのハ取リ至ハ伊ハを又と取

ると他取ノ方取ハ取もると右例分

取石直の取方取三合拂

江後一海海

天明五年申辰

拾六番

山田より伺

一 勢別字山田より巨捕の字者幸由盗以  
多し一件

稲垣梅津書

志別善志教多母友高所

在八女房

石拂成との事り任教盗物と  
石存候人との信以多しとの事

右の事石拂にお成の幸由系いりよ  
く為立事の中処江を候様盗物と  
以得た幸由任教得く此所も不  
盗物と不候入りし事候石拂  
月候

代銀係以第一方人爲償以上は料淺三費文

は後其文の如くは其市産の得た益物

とる好質入りのこととを以て不爲す件に

同勤務員は其方人見合何れに

質代銀係以第一方人爲償以上は料

淺三費文

其後とて

因不中しは因町

係多房少房

夫は任の事而相成はものごとを  
若るは後益物とる好質の事也  
いもの

印 王

右しとの後而拂に相成は其物を病氣

は逆支三分止者爲改の上益物とる好

は得た事物に於ける如所も不其れ

益物に不質入りのこととを以て其文の

後其得た好質代銀係以第一方人爲償

其文の如くは以上は料淺三費文

は後其物を爲改止者は其文の如く

は其得た好質代銀係以第一方人爲償

其文の如くは以上は料淺三費文

其得た好質代銀係以第一方人爲償



多由所も不記盗物も不償入致しを  
 以科重し由在り処傳定書に盗物と云  
 不存ゆるが所も不記盗物と云  
 其いとのに科しと有しゆは合はれず  
 償代為償ゆも不及者も由在り  
 其志別有羽償代方へ成り行居  
 仕いとのに記人せしゆは償代引  
 多し仕事しと意味書未書に上  
 左いゆも償代不記由在り  
 不存記人せし如通例償代と云  
 其扱へ成り不存記と変りて記人せし  
 為償償物と云返し一は盗いとのに  
 おぼりり事と有しゆは定こ見合無  
 之のたきと記人せしゆは在りゆ  
 其償代と換失能為致ゆ何し返  
 償代根傳に事しとく為償貫文の  
 取取上り科錢之費云

評後之海河

天明八年申年市渡 三番

右府盗賊改

長谷川平兵衛

一、盗者新為盗以在し以一件

浅茅福井町

幸七店

盗物と石存質入り品は  
右盗賊を執り置るは  
後質物と戻りしと  
内ふと

清善房後承

くら

右ととの後新為岩新知人高作  
頼益物と石存質入り品は  
所もふお札衣類と品同店新物  
質入り品と石存質入り品同

物に信を以て益を以て中より出たり  
戸口も亦信を以て益を以て中より出たり  
其の向ふ所の信を以て益を以て中より出たり  
金貨も亦信を以て益を以て中より出たり  
其の向ふ所の信を以て益を以て中より出たり

は後益ありと不信ありと世に  
しむるに似たりと信を以て益を以て中より出たり  
其の向ふ所の信を以て益を以て中より出たり  
名も亦信を以て益を以て中より出たり  
其の向ふ所の信を以て益を以て中より出たり

是の如くも亦信を以て益を以て中より出たり

文

信を以て益を以て中より出たり

寛政二年正月

亥五番

駿府町奉行伺

一 宗廟用古登心五十一件

駿府傳馬所

三 宗廟後承

宗廟と八存礼御書文

御書文をいとの

右の如く御用存致し但世登物と八不存致

しと宗廟も不致礼登物宗廟御書文五存一

御書文を信御書文をいとの上礼御書文

文書文の御書文を御書文礼御書文八文書上

之科 三 御書文

此後五年卯年十一月村信流馬中御定年

村信流馬中御定年卯年十一月村信流馬中御定年

福新町志九市将之御定儀併之内因由

紙跡村百姓九番儀定物之木存以均

在右之御之形出新も右に記定物衣取

儀入りしに右之御定儀併之内因由

浪之及費更に取右均身世任科浪定

天之上科 涉三也之文中自以例 足合相

と世費更に取右均身世任科浪定

併取し海河

寛政三亥年申渡 六十九番

町奉行

池田能後与同

一 高野郡全次希盗以し以一件

本撰町丁目

井戸番人

字無傷方辰

八字中宅之屋敷名取不宅

番しとの屋敷名取不宅

名取字色内しと取御し

との

右しとの儀去成二月吟味し候有し

揚り屋入在字中 高野郡全次希中

凡本要ゆ五人宅番し其はとの取物し衣

取し御之形出新も右に記定物衣取

後横川石伊横田派之物有之  
一因石正殿内石正殿内石正殿内  
石正殿内石正殿内石正殿内  
石正殿内石正殿内石正殿内

此組合一因石正殿内石正殿内  
石正殿内石正殿内石正殿内  
石正殿内石正殿内石正殿内  
石正殿内石正殿内石正殿内

返り文  
評後一返り

寛政廿五年庚辰 八番

駿府町奉行同 一 伊豆伊豆

駿府町奉行三丁目 依吉書

史記一返り中  
石正殿内石正殿内石正殿内

石正殿内石正殿内石正殿内  
石正殿内石正殿内石正殿内  
石正殿内石正殿内石正殿内  
石正殿内石正殿内石正殿内

礼浅志文其更の儀右得書極身源右基  
方へ質代御侍下自のこり科三費文

被仰伊仰お取の里を以七き南へ質入

儀多お取の礼更佐台を二費と申す

一也七禮人へ質入源右更方へ給

そり代儀を費取白文を質入せし

礼浅志文其更且右質相入留儀

伊仰不申すの源右基方へ是合の処

承知不渡の布を履及挨拶の趣程又

質入のこり一其の所伊仰不申すの

至是禮人右目以多御入をり代金五分

と源右基方へ質入のこり一其の

るそ篇の伊仰との也對法へ儀右七云

湯の右拍取の五つ且質入其禮人を

前書質入右常右基其禮人伊の傍

以紙へ紙之を彼地仕事へ紙を不

多し心御取の不申御礼文七き傍伊

仰不申す取の取し又佐台を二費と申す

多し一其交之質入し其活仕のとの

ハ西在の得右一返りハ佐台を二費と申す

二部づいし舟新中、川文波也、信はるを能  
又、中つ以上の事、且、使信吉よけとの  
五平、方ハ不念、と、市在、台、如、永、二、已  
年、曲、測、甲、地、受、町、子、仍、そ、何、し、上、市  
外、皆、中、自、以、是、中、一、第、三、丁、目、付、之、市、丁、店  
道、名、若、津、一、雲、中、房、加、孫、傳、又、津、書  
知、人、三、別、名、有、吾、伊、事、源、為、所、教  
い、所、ハ、盜、物、有、一、処、を、後、ハ、不、存、い、とも  
お、祈、也、不、お、礼、を、津、書、中、中、つ、い、と、ハ  
乃、中、能、大、物、之、意、を、取、右、一、和、盜、物、之、以、六

不、念、之、月、急、友、呼、り、重、い、教、例、之、見、合、礼  
穢、苦、更、以、始、末、不、宜、以、万、礼、穢、也、上、ケ

三十日押込

江後之海



寛政五年申渡 二丁六番

右附盗賊改

古谷川手彦四

一越後守名久新盗賊しし件

新枚寄原所

源善房后

有吉島村

盗物とわたり品物取合子  
信り文をいふこと

ふ い

右のとりの後品物とる金子かり文書し

品物とる通し品物有る処を後いふ存

いとも久新盗賊しし件と出所も有る事

そと任所も有る事と申す右京頭とる

金子信史をしのばるる月右金子信吉

方右僕

世故益拘束所も不世世語のし

拂をしのとの智く世世語人をも口入

口入く世とる事とる條を定まらば世を

仕候とる世とる科も世世語のし

一同とる一方却る世世語のし

五とる世とる世世語のし

上とる世とる世世語のし

いとの世とる世世語のし

分世世語のし

取らるる世世語のし

いとの世とる世世語のし

評候とる世世語

寛政五年丙辰

寅九番

大冨盗械改

長谷川手形伺

一 前時寄着文武帝盗械しし件

新喜東京町二丁目

長谷川手形女屋

六十市方出居石と瓦控申  
手形伺し居るに書付御  
取付目全在居居年三番方  
二居し

發給信次書

怪形取との所をくつ雙入  
つとくをくつ目辨せしもの

四 記

石ととの役文五年一寄居石と瓦控申

長谷川手形女屋とくつ目辨せしもの

長谷川手形女屋とくつ目辨せしもの

正徳九年のいしめ河津に盗取をも文のりて  
質入りし書文を録り書中よりは物本  
怪者早と名附りしと云人六十市も  
申方もいふし処年を後より右品質入りし  
是の御主人六十市質物返りし物  
いしめ河津にありし割右文五市  
及り物本質物ししを自解りし  
申書し物本右河津にありし物本  
より自処如し後より二十日  
世後吟味書し返りし物本

注し後より盗物と存口話  
ハ石取とのし申定り合致あり  
とのし処自解りし一  
く二十日  
評致し返り

右六十市抱持少

盗物と存品  
録り書いとの

若 石

右いとの後録り並い早を盗物  
石存りしと申河津にありし物本  
石存りしと申河津にありし物本

も石ノ野右兵衛の盗取物不持身在石ノ野  
云々

此後元和九年盗物取不取此取物

とのし書月うん合吟味書し取物

此物取取物纏伴二取持来客分取

盗取物月皆取り其取物取物

分取物取物取物取物取物

取物取物取物

評議し通御

寛政五年申渡 寅部十一

駿府町奉行伺

一 駿府町奉行八盗物一山件

本多伯耆守候分

東海乃友校宿

後八後取

いち

同人組合

七

二人

盗物と不持物又六組合とのし  
取物入取りし取物り合分  
し取物取物取物

右とのし取物去申七月十一日廣在場

取物とのし取物方取物取物取物

入取物とのし取物取物取物取物

主上五反を以る品は後條中少いり運  
る所より御出せし御質代金或は分  
錢を以て八百文一圓と金を分出金とし  
右右邊にお返衣類或拾得品諸反出し廣  
右邊の方にお返不恒儀を同分と事漸  
い始末不場有過料二冊と文宛中右右  
邊の分取上の金と分と組合に人  
返聖  
此儀吟味書し証を以て御初年  
し娘やす質侵りしし以長廣書場

多しとの方取越中少い御始末取  
り質屋忠在書し分取反の石と云と取  
左の留一同此り並忠右邊の分取上分  
金を分取分介と組合に人お返聖

評儀と証跡

寛政六寅年四月 四十二番

大淵益城改

長谷川平兵衛

一 大淵町七兵衛店新六盗以五一の一件

南丁橋三丁目

次兵衛店

大淵益城

三二 ぬ

盗物と石存雙入りしを  
又ハ新り並いとの

右しとの倅十師任お親史も不り

高筋新り並お返一又之風呂愛包新

り並或も新判馬雙入り並一その後史

兵衛并流人お御上り守官新信史

平右衛門入以し重又と欲り重公監  
相とあり起と後と不存ゆとも十師任  
中旨得与相所も不お礼儀入以し重  
又と欲り重公監と得与相所と重公監  
上と科三と文

長谷川平右衛門同以南品川右武丁目

重公監と入以し重公監

盗物とあり起と後と不存ゆとも知人

重公監と入以し重公監

重公監と入以し重公監

重公監と入以し重公監

重公監と入以し重公監

重公監と入以し重公監

重公監と入以し重公監

重公監と入以し重公監



寛政三寅年申渡 五十六番

大相益紙改

長谷川平兵衛

一南時宗若孫若外々人益以多一山伴

市三谷修竹子門前

劫奪場門店

有筆屋

倭書場書

屋 以

五初之石存品紙り金いり

右いその倭紙り主品紙を盗物と有く  
起す倭を不存品ととも元元任新も亦  
この印甲を切ら切新も亦紙右取紙

この後不帰身取り主の品上急度  
叱り

此後昭和九年三月十日

返却の品上急度叱り

伊波之返却

多野町八丁目

持込場一店

料理場

吉野場中

之形

同人古仕

別元も不知り力分主人にも不中  
盗人と存費其更いの

忠七

右のこの後其更い品金子を盗物有と見

其後と不存いとも主人にも不中身元何而

も不存との不費い請い後不帰身存品金

子下上

此後二月評級而下と長谷川平彦

中上と品取問五丁目仁善湯店安在湯古

仕り、後酒之おとむ柳費い品金市助

益名い金子と酒い品金有と処を後と不

存いとも主人にも不中身元何而品金

更い後不帰身存品金上の中上と後不帰

被上領之海与上之海に海の創見合  
領之海貫文の品并金子に在り上

伊波の海

寛政九年由渡

二十二番

大府盜賊改

大久保甚多傍伺

一野中村に昌傳七盜以し此件

新在東京町或丁目

家持

年十市抱

持如

花

思

和

幸

人

因人石仕

九

四

ま

さ

元元不知りい合金子  
貫文の品の

右しとの有候世其以文の金子に盜物有

延至後も不存也身元任不も不存也  
身元任も不存也金子貫の文は後不存也  
く貫の文は金子貫上

世後一付し向七右邊に口紙しとのと申在り

個々迄秘し貫の文は金子貫上

江波と通漸

橋本町或丁目易無傷店

右邊方之存在は因人妹

當時馬喰町或丁目

傳言傷店

伝言傷書

身元不存その分  
金子貫の文は

ふ

存しとの後貫の文は金子貫益物有る文

と後も不存也とも十傷方止者以返し存也

るは身元任所不存との任中も十傷方

兄右無傷も不中可右金子貫の文は後不

均す貫の文は金子貫上急な文なり

世後吉元寅年伊波と申すは長谷

川平新お個い喜舟所は丁目控左邊店

料理茶屋右無傷中如を金子貫の文は

品類金子と益物有るは後も不存也

とも身元不存身元任所も不存也

の公費文は既石傳り存案并全案あり  
とて同評議と上伺し海防上とて海軍海防  
例を合はしとのに控費より科理案を  
し類とも遠くは留伺し海軍文の全案  
の上と急返也

評議の通御

寛政九年市渡 中七番

右附盜賊改

浪田雅治郎 伺

一 此者若き所儀見承る所方とて盗入盗以  
一山一件

本和お生所即丁目  
巻七后

若年次書

盗物と存せしも不申す  
賣掛を—自得りしもの

存 在

右—その儀世話にて—賣掛を—の品も  
若き所盗入の品有—処を儀と存せし  
若き所儀中若しと申所も不申せし  
中買掛を以て不傳り急返也

此自許以多一の月智と名先

此後石意とて西庄の地自許以多一の

身而四月許誠と市下と名成り大久保と

無湯の地は東溪町に丁自長ゆ店津

心後質入又と名賣拂を以て品を置物と

有る地を後と不存貴物と修りて紙

懸言と名成り色と身先任新も不存と

の任中と名成り物新も不存此右品質入の

多一又と名賣拂を置り右品と角白洞

源と名成り紙懸多一品と中下り

の外と名成り一の品とも遠しを向とも許

か取中一の方も一の地と名成り後質物清

房ありて因分と名成り一の地と名成り不存と

付て科後質多一文一の付地自許以多

一の地と名成り名先と名成り後質物清

付て地と名成り上は例と名成り名先と名成り

一の地自許以多一の付地と名成り名先

許誠と名成り

寛政十年年出渡

四十七番

大冨盗賊改

池田雅次郎

一 深川等者左五郎盗又と水掻場所にて  
立入捕賣以多し此件

新吉原系河或丁目

左五郎店

松中屋

松く柳抱松女

花 咲

和

即 人

盗物と名存録り  
まじりの

右くとの元後録片を名正しおとされ  
右吉原條を水掻くとの有起其後を不

存此とも身元任取も不存との但中名之人下も  
不中石取取り主は候不場有候取り  
置品取上急交也り置中起訴お山有能  
之有先

付候吉由事不取り以事と事物取織帯  
之取多分不取取し品取も難中取  
以和九辰年し由事付并自訴以し  
以事の取し候とん合伺し返取り案  
取上急交也り主中起自訴以し

以事の取有先  
評決し返候

寛政十年年水渡 中二番

山田より伺

一勢山田町と古挿以各名取取盗以返  
以一件

勢取交會郡

宇治市一地区所

中村郷

治平抄房

盗取と存取後止者夫  
質情面を以て入すし以の 奴 子

有しとの候更治平を案以し以事取を  
盗取と不存治平取多し取取取取取  
止者盗物し不金在也りとお取取入以し  
是とと不物取更以取取取取取取取



品物 上三十日押込

廿後去ル予年評後市中々成以段

府及督河三丁目估各事之先長伊也

今更形品品益物とて不存以者ヤ

乃有七長傷今更形質物入更形取以

更初之指子取乳更依若上可中更

之後益物品品質入以之とて上礼後

更指更更更更更更更更更更更更

質代後債中自以上更科之更更更更

個評後と上礼後更上三十日押込

上出例見合伺之返更更更更更更更

上三十日押込

評後と通海

純仔細紙子

同紙紙子紙

木坂清地町

権印少房

盗賊と不存の波止者又盗物  
長黄拂をし質入示ししもの

又 加

存しもの後更更更更更更更更更更更更

い為立入敷夜為没止者又と隣家幸ゆ方相  
ね為没一層出所も道方不れ乳索常任取致益  
おしお質入せし以上賣押をしと上にお信文い  
後旁も得身廿日押也

世後言ん成年曲剛早後言り幼定奉ゆい  
言り限伺く上由替中自の上言上可次在  
席居其去兼寄寓り如房已り我任不  
存毒系系来り古忌高ひいししこの  
云る多言質出有くは良と質文其作  
板り少い連言え亦お知このは事知し

挨拶以女しゆ有在平次を致益物若紙い  
を盗物といふ心附候り金い限も得身廿  
日押也甲自い教例とん合いこのと云る  
を盗物といふ心自止者為没盗物といふ  
存いゆた質入又と賣押をい不得も有  
品不直い言伺く返り日押也

評後い通候

寛政十年年五渡

七拾九番

大附益候改

池田雅公御伺

一 当侍等右馬御元足燈お勤能事益候

一い一件

赤坂田所六丁目

次吉房店料理番

勘次郎古仕

一 銭

盗取と石存費文

とよ

右ととの候昔の更の銀子と喜由盗取の銀

子とより知を候はる存候とも元元任而も

右存との候旨候も取も石取紙貫い

五十一

文の候不場と有貫ひ文の根子取上

此候言ハ寅年評候之由下々長谷

川平為大附益候改ハ其相伺ハ是所

以丁目控左馬ノ店科記系倉在言

中如子候貫ひ文の果并金子と盗物者

ハ其候言不存ハ其言ハ不存

先任而も不存との貫ひ文の候不場

付存品并金子取上とお伺評候

伺ハ返と申上之返お海ハ例ハ合伺

貫文の根子取上

評候之通評

寛政十一年申渡

五十七番

大附益候改

池田雅以申伺

一 年子候名入事言申候 盗物ハ一件

川平川者申丁目

取持候評

左在處 抱飯賣女

加 海

盗物と不存 貫文の果

右ハ其の候貫文の果と盗物言々ハ其候

言不存ハ其言先任而も不存との候申上

人言も不存申存品貫文の候自評候

ハ其言不存申貫文の果取上

此後去々寅年評後之町下ケ成山長  
 谷川平野大附益緘改之良お伺ひ是  
 掛町八丁目控石御門店料以米屋吉  
 吉場下中ノ手後貫主品兼金子ノ監  
 物有之処を後之町存以良之入りも不  
 中少片元任不も不存之の公貫文の能  
 有得之有石品兼金子とも取上るお伺ひ  
 改之上伺へ返る中上以例之ん合伺へ返  
 貫文の品取上  
 評後之通評

寛政土未年由後 五十八番

大附益緘付

池田雅以平伺

一依る村々名付立平監以取し以一件

高崎仲町

五八番

水茶屋後世以し

惣右衛門

急い

人し事と益初と存  
 板外評貫以し

存し之の依貫文取持以し以取以益初と  
 有之処を後之町存以良之入りも不  
 の件有之文も不中少片元任不も不存之  
 多し以後石御門貫文の品取上

此後去己年江級市中と成山太人  
係云無湯古附盜賊改く長相伺の橋本  
町忠多房方之存在同人妹高付馬喰  
町治多房妻ふ一彼貫以多山金子と  
盗物有く処之彼を不存いとも十普房  
方之止名以多一存在い多と亦元住而  
も不存との住中と十普房并ん忠多房  
はも不中少右金子貫文の股不備付  
貫文の金子取上急交吐りとお伺江級  
く上伺く返与中上例に合貫文の取取

上急交吐り

先達多存後仕中上池田雅公并お伺の住居村江  
名住中常益以及し此件に因り事件何事凡  
店多業屋渡せり一の想右事急の彼多貫  
清山和上急交吐り中上例に合貫文の取取  
一のとの貫文の取取上例に合別股由外多  
不中自先例有し取取中上例に合貫文の取取  
く股と何事い  
は候料理多存後世以多一の多の書盗

物乃石存全淺貫文のその貫文の全限云  
上別後市整と石中自先例市在の石中全  
後世亦以爲一以との石凡全淺亦貫の其  
ハ別後市整と石中自先例市在の石中全  
と吟味書と詠とを撰か郷貫文のその  
と与全淺貫の石と石整の系全後世以爲  
一以の石と後とを石中在の石中全  
類乃石存全淺貫文のその貫文の全限云  
石中自先例市在の石中全  
石中自先例市在の石中全

も石存全淺貫文のその貫文の全限云  
石中自先例市在の石中全

評後し通漸

寛政十二年申酉

八番

大階盜賊改

長形同記付

一 三十万兩七丁目三右衛門元抱那(高時)等名取  
盗以多一以件

橋本町丁目

長形在

又右衛門事

十

右(その)候又右衛門(高時)等名取  
紙包(盗物)有(其)候(高時)等名取  
和(右)右(左)紙包(内)を(も)不(改)改(り)重(上)  
右(右)五(市)取(紙)等(一)又(又)右(衛)門(改)等(以)也



山柳を辰子守処に在る倭右不郎りま公能も得  
る所郎りま公能も得る所郎りま公能も得

は倭明和九年盗物初め不乳郎り

いとの香く倭右不郎りま公能も得

海を交り

注倭と通漸

寛政十一年申酉 拾五番

右附盗賊改

出部内記伺

一房別名孫五郎盗りし一件

房長長捷郡

東條西村

百姓

定平母

子川

右の倭賣拂を以て官初盗物と

す不存ゆは孫五郎何れもは初不存

お乳賣拂を以て倭右不郎りま公能も得

と申すは初不存ゆは孫五郎何れもは初不存

五十四

多し延之倭因分てし其の形を以て  
多し延之倭因分てし其の形を以て

其の形を以てし其の形を以て

其の形を以てし其の形を以て

其の形を以てし其の形を以て

其の形を以てし其の形を以て

其の形を以てし其の形を以て

其の形を以てし其の形を以て

其の形を以てし其の形を以て

評説之通海

同形廣場村

百姓

右に帝後形

い

右にその倭形夫と云ふ事ありしりその向か

評説之通海一方可も有し延之倭世居りて

一川き方におてし同分てし其の形

多し延之倭

は倭人をして捕獲相返す事なし

いそぎし給ふと云ふ事ありし其の形

多し延之倭

評説之通海

寛政二年申年 申渡

格六番

大附益械改

品類内記個

一 上総守名小いさき等七並又ハ投火等し

一件

相良三浦形三海河知可

百姓

豊八冊

加 尚

右にその儀は入りしを賣拂ひ以て益揚

に有し処を彼所存存共是任中者均与

取所も不在此右品入りしを賣拂ひ以て不

五十五

増し有る事なり

世俊の和子年益ありとも其後  
多し賣拂きとの旨し候し評改仕  
申上り書面し肉多様末と事過科とも  
在成なりとも其成一同に候し方却り  
申上りしお南の事し申上り書  
申上り書文を返向後お申上り申上り  
候し評改仕合合不意と事申上り  
候し返る事なり

評改し通候

寛政十一年申酉

四格九番

火附益候改

池田雅次郎

一高侍等者此人ハ新益以候し此件

新益京角所

産吉米店

持中屋孫八抱持中

ノ記 玉錦

和印人

盗取らる存  
其更にとの

存しその存候費多の事し益あり有し候  
候し存候費多候し存し存候し存候し  
存し人古も存し存し存し存し存し

身世更に果し

以後を以て年一江波市に於て池田雅

治常一江波市に於て戸塚名義新屋傳

言情抱飯賣如こよ後世更に果し盗

物と有し更に彼に不存ゆりも又え

任不も不存との任中も主人も不

中世更に彼に不存ゆりも世更に果し上

る同江波市と伺い海万中上例

見合伺い海世更に果し上

江波市通海

寛政十二甲年西渡 八十一番

大附益被改

池田雅次郎伺

一牛込改代町改右の方居の荒井源八郎

盗心一の一件

飯倉所六丁目

平高店

又吉事

屋す

盗物も不存賃入し言

身秘盗をいし

右のその候又又吉事秘賃を賃入る波集

と盗物も不存賃入し言

任中も不存との任中も主人も不

中文字も不甲少官被貸を多麻未に下し  
以服石坊の自過科一之申す文

廿後川和六丑年一收那大隅守町守町

之算何し上西替中自の上舞少方町

吾右の如房加川後半官長者町野丁

因吉長需店音右方之雙入之後自院人

官能若乃越森中自長長乃為るに上を

五以の中処注を後官長乃在偽り運

力中守の申るに得方雙入の申すも

不取紀院人申能の女しに服石坊に

自意交此の事以例是合申すの候

ハ又病氣の申す不甲少服品石屋に

召三十日押込

評談通序

寛政十申年市海 函指部書

甲府市番支記

一 甲州吉柳村源八伴為市番事高侍  
諸名級次益以多し此件

駿府町奉行岩瀬政光

駿州 仁厚 宿

申年 後 承

諸名級次益以多し此件

右にその候年古簿に任中級次候旨有らる

る存いゆる人その内没止者より登り

らる存いゆる級次任中候旨有らる得

らる存いゆる級次任中候旨有らる得

五十八

り届る得るは料三冊文

此後三年年評使市下と成山田年

仍其同の勢別上中と地所町中村例

古及具る次年少房改と後又改年白

安以多し山と地所を益城とる所改

年等より言多し内改止者造りし所

全空り相形雙入以多しをそと品

物世貫文の版音石持身貫文の品相

名上字目押込る内同評後と個し返り中

上代例とる言はしとの小後多し旅人言

品業の成り身しとの身同し返り

料評三冊文

評改し通評



享和元酉年由渡

拾番

甲府市番文宛伺

一 甲府市老宿所庄御盗以し此件

甲府換金所

番代為御

盗物ハ不存夫ハ御極上ハ  
雙入以し此ハとの

右之の儀盜賊庄御庄在方百姓家御盜取

又ハ所方於湯屋若御庄取以之ハ御庄ハ

不存以爲不御庄ハ御庄御庄御庄御庄

也御庄御庄御庄御庄御庄御庄御庄御庄

辰石傳書之日二十日押之

五十九

新設去申年丁酉改修下ヶ谷池田

難波市お宿の飯倉町申丁目字吉富店又

吉如房屋守飯又又吉中飯貸玉雙

入お波お宿の益物まゝし又お飯お宿

お宿大御守申年お宿お宿お宿お宿

申年お宿お宿お宿お宿お宿お宿

申年お宿お宿お宿お宿お宿お宿

申年お宿お宿お宿お宿お宿お宿

申年お宿お宿お宿お宿お宿お宿

申年お宿お宿お宿お宿お宿お宿

申年お宿お宿お宿お宿お宿お宿

享和元年丁酉改修三拾町番

大附益城改

長形内記個

一翻町申丁目吉富店番番屋九町丁古仕

申年お宿お宿お宿お宿お宿お宿

翻町申丁目

お宿お宿

七右衛門書

丁川

盗物お宿お宿お宿お宿お宿お宿

お宿お宿お宿お宿お宿お宿お宿

お宿お宿お宿お宿お宿お宿お宿

お宿お宿お宿お宿お宿お宿お宿

入心女一を以て服石等身之料三升三斗三升

以候高二月評候に市平十石取以甲府

新番支配お伺以甲府積金會所新代

新冊子に後益紙店中在方百姓取与

益更又も町方難湯海島新替新改作

益し取与に石存山為石取取取取取

お札店御新代紙牌新代新代新代

石中取取取取取取取取取取取取

三十日押込方お伺評候し之伺一通

石中取取取取取取取取取取取取

評候し通海

同町

同人后

市平新書

盗物取入に三升三斗三升  
石中取取取取取取取取取取取取  
一又新書に之も市平新書

右に之の候通情新書取取とも貸取一候

入取取取取取取取取取取取取取取

右に之の候通情新書取取とも貸取一候

右に之の候通情新書取取とも貸取一候

右に之の候通情新書取取とも貸取一候

右に之の候通情新書取取とも貸取一候

世候乙申年評候に市平十石取以甲府

次市大附益紙改之節お伺い飯倉所  
 五河目手無湯店又吉事屋正候又又  
 吉事被貸を賃入為改め和吉益物之  
 有し趣を候は存候は天所任中又改  
 与知而も存候痛中占ハ力中又亦も  
 不中守中取貸を素未改一紙取不  
 得身過料之者又占同評改之  
 三十日押込占甲上例子人占三十日押

証紙と通紙

享和元年申酉 申酉番

大附益紙改  
 号取内記個

一 中務注看申候申子有申番一益以五し  
 一 件

新吉事京所 御子目  
 吉事店 括申  
 孫吉房 抱申

盗物と名存主人通候情か  
 賃入ししを後更屋し其意

有し其の候賃入い多しを其後更屋正  
 以果益物と存し趣を候は存候はと改  
 以任中守得方お不存候主人通候情面

持かへて入心しきき後以事古任お

頼右因人より更廣き限り有る三十日

押込

批後當二月誤城之由下之成以甲府初

番支配お伺い甲府横正町町長代務

冊子より盗賊店師在方百姓家より

盗取又々町方終湯屋若智居取以

盗取品より存心偽取相お取も不取

札店少取より世畔新代務にお取中

す能入心しきき限り有る三十日

押込とお伺い誤城之由通す中上

例に足合伺い通す十日押込

誤城し通海

享和元年年法後

五十七番

大附益紙改

固形内記個

一 青山山名千新盗以女一の件

日光道中

箱壁宿

旅籠屋

卯七事

やま 天

盗物と存出たも不能先にも  
不中ノ旅籠宿に代り出候り

名しとの彼旅籠宿代候に代り候り候

いふと盗物と有し其紙と不存候も

不中者候り候り候り候り候り候り候

不中ノ旅籠宿代候に代り候り候り候

辰石傳有銘の金と品の上猿蓑代銭  
扶方の上急交也り

此銭初有銘の猿蓑代銭と品銘り

金と品の上明和九辰年と品書

金唯一の銀と通銘り金品の上

猿蓑代銭扶方の上急交也り

評改と通評

享和元年年法渡 五十九番

大附盗賊改

園納内記伺

一上野町幸丁目市兵衛店九助方と居り  
新八盗以五十一件

上野町幸町目

市兵衛店

九助方

奴 子

盗物と有存史と有存甲

奴 子

右とこの儀賣拂をいふ所を盗物と

有る事其儀と有存いと新八仁甲

与りたおたも有存史と有存甲

賣拂をいふは不徳身急なり

世俊明和五子年盗物お断不此世活

以多一賣拂をいふも入法智の候なり

評談仕中上は書面より其始末より仔細

もお成りしりもお成一同に之より方なる

法智にお成りしりもお成一同に之より方なる

中上具通向後おん後より自ら任りし

二月全不念とて所望の箇へ返急な

任候通海

享和元年信後 六十番

大附盗賊改

園形日記

一 下谷着吉忠希 益以多一此件

新吉原江戸町町目

文助后

抱拵態勢

抱拵如

奇 崎

盗物に不存莫文いとの

存くその候莫文の品去盗物より不文

其候も不存のとも身元任りも不存也

の候中主人もこの中莫文の候不

六十四



巧身貫以文の品取上

此後去甲午年評改之序下と成り此田

田雅次郎大舟益城改く長お同の新吉

東京町或丁目久次店遊女屋はさ抱

遊女初之井後貫更の品を盗物とす

く処そ後と不存いとも身元任不も不

存との任甲と坊と出不も不お礼と人

白も不甲と坊右不貫更の品を盗物とす

貫更の品を盗物とすお同評改く上同し通

白甲と坊例見合伺く海貫更の品を盗物とす

評改く通海

享和元酉年評改 戌十四番

火附益城改

園初内記伺

一三河守右友田表米次子八十八盗又八人を

殺し一件

新吉東京町或丁目

久次店

遊女屋伊和初年

後兄吉普湯抱遊女

花

劉深事の字を盗物とす  
火附盗物を盗物とす  
一を石後と同とす  
代不私貫更の品

合くとの後八十八品と持系り貫入又八賣

拂呉の初お初と上合くとの八入事亦も

多し任りも多し身分取盗賊といふ所  
以得た存品世話おのり揚代等し由  
中買取の揚代候も不成割染糸未  
し候取引續呼中交の連盗物と存存  
品取り並又ハ揚代り結をとり名物と  
賣拂いの子御お取の良因人分兼多倍り  
又居の給物代沙を存品賣取の代金  
肉とる返一貫の積り約束の返一  
礼物貰取の目所候取如く候多弁  
等し存し者を呼是中交と存込候

高巧い候事しとらる中前書し始末不届  
付取り並品取上ヶ致取仕並もの存何共  
と而難ゆゆ大申し候と月十五日迄急申會  
り自の上主人に引渡

此後所定書し盗物と存世話し  
配分し不取りの致盗物と存取り作  
その致と多し候もの盗賊八十八持  
系り品ハ盗物と存取附貨入又ハ賣  
拂し世話しと一しり給物代取掃も  
拂のを各同人中買取の泥と賣捌し

儀ハ右七上おれいとの、市庄以寛政元酉年  
 振倉肥前市市印定まけし、長子限個  
 く、市庄在り、自い、各局保吉儀ハ、兵衛を  
 盗賊之、乃、希、物、ホ、く、世、信、以、く、一、交  
 く、儀、費、更、以、限、不、届、身、致、り、自、い、例  
 も、市、庄、以、方、有、支、持、一、市、定、并、例、を、も  
 足、合、何、く、海、新、く、金、以、品、以、上、致、り、中  
 自、交、持、如、く、儀、以、月、廿、日、迄、迄、年、

海渡通所

目町

店次前店

遊中屋与市抱

遊中

坂山

盗物と石存雙八つし  
 黄を之ハ、果、新、り、金、も、か、し  
 在、い、もの  
 存、し、之、の、儀、質、入、り、一、黄、を、又、も、新、り、金  
 以、品、ハ、盗、物、を、考、く、起、る、儀、を、不、存、以、と、も、身  
 元、任、而、も、不、存、者、何、中、有、り、く、お、所、も、不  
 相、礼、人、も、不、中、少、存、品、質、入、り、多、一、黄  
 を、或、ハ、品、新、り、金、合、子、加、し、を、以、後、不、得、り、身  
 新、り、金、品、以、上、貸、を、以、金、子、換、矢、く、上  
 意、交、也、り

此後夜新紙の通い候も亦座長御監  
物と存候候に是貫を御座候事不  
場有盗物と存候候に是を以ての御  
定に合致する事候事上貸を以て金子  
換方とて是科沙三貫文のり付也  
此女は候月三十日押込  
*証候通海*

因町

五郎店

此中八右衛門抱

遊如

清 游

*揚代本差法りは連盟物と存候事  
質入つゝし貫を以て又ハ貫文に候事*

右にその候市を所持するに品盟物と  
る所附取以候事揚代に是を以て運取品と  
質入つゝし貫を以て又ハ貫文に候事  
不候事付取のり付取如し候事付取十日  
是迄年合し上主人八右衛門引渡  
此後盗物と存候候に是を以て又ハ世に

以五し配分ハ石五斗の致し布送子  
凡舎如く後月何の返五斗日迄是半  
以上主人ハ右揚門下月後

評後之通所

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

同和角町

家之末七事

是西と不存夫も不存  
右ハ其の故新り是金子加一を又ハ質  
入少女一を品ハ盗物と云々一処を後と不  
存ハとも紅梅何中名故と初不も不取此  
夫古も不中不存品新り是金子加一を  
或ハ質入少女一を品ハ盗物と云々一処を後と不  
存ハとも紅梅何中名故と初不も不取此  
夫古も不中不存品新り是金子加一を

不取上代不存金子換夫と二十日押込

此後永七戌年 牧野大隅守所書

初ノ第何ノ上ノ事ナリ何ノ在所吉田  
 町ニテ傷店欠落源七事ニテ彼支源  
 七者賣酒高心多し居在折ノ未任不  
 不存友平彼縮緬袴袴袴毛織腰  
 帯多々助持系知人分信更公不月雙  
 入心し其心任お取以心とお不も不  
 乳友年盗取心息想ハお彩金多々手錢口  
 百文ノ價物之並をし以假物ノ彼百ハ  
 片ノ不坊ノ書月三十日押込中何ハ例  
 二兄合何ノ海三十日押込  
 注波ノ海佛

京橋柳町太急湯店

勘地方ノ同居以之ハ

五節多傷事

急 い

夫或方ノ事ヲ以テし以テ  
 望不ト云存覺人ノ交々  
 形天分給リハ同居礼ノ  
 在覺入リテ之ハハハ

存ノ其の彼雙入以之ハ其品ハ盜物ニ有  
 処ニテ彼ハ不存以之ハ其三節任中何ノと不  
 も不存礼更五節無傷事為中何ノと夫分取  
 リ重ハ價物目書ノ札貸入を存不覺入ハ致  
 以彼五節多傷事武吉方奉之以之ハ以初之  
 彼事不坊月三十日押込

勘地方ノ甲年注波ノ海佛

池田雅次郎お伺い飯倉町五丁目子爵

店又吉右房屋敷又吉右形貸金屋

入力後お伺い盗物に及らぬ候に存心

とも大御但中と存心にお伺いお礼願

中とお伺い又とお伺い中御形貸金を

未にお伺いしは後お伺いお伺い三ツ文

とお伺い評議し上三十日押込し上は例

又合伺し返三十日押込

伊波右衛門

橋本町五丁目

武右衛門店

伊波右衛門御座り候事

御座り候事

存心とお伺い御座り候事

とお伺い御座り候事

中清花中御座り候事

いと世帯の御座り候事

とお伺い御座り候事

湯方にお伺い御座り候事

交り





之と存し如未夫去右邊りとも包と存在し

既石場より一を以て金銀換夫と云ふ事

心り

此後天明八申年山村信法が町奉行

良例として世に傳へられたり

良例は去無傍冊と云ふ故申す也

伊予藩店仔三市一方月之雇七兵衛先

事と百仕といふの月賃人も不承事也

仕と上七兵衛と麴本調系中自金に

友部子お後い処小善清組前田安房

支那谷金五市一方と傳説は折有いを

事と良例同和西所源八店右卯火持

金子五市の方と云ふ事と云ふ事

新玉を後金部と云ふ事と云ふ事

例とお例は月如元百仕は後方也

と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

ことん合例と云ふ事と云ふ事

伊予の海

享和二年水浸

九番

火海盜賊改

異録内記個

一火海盜一柳 秋吉 役屋敷 門番 人利 柳吉  
居以 奴一 押 盜又 火海 一 二 件

山田 氏

竹中 氏 役 家 系

年 保 一 百 卅 五 年 辰

此 處 之 所 存 書 卷 五 拾 三 冊 目 録

七 冊 之 中 換 取 金 五 兩 五 匁

元 上

右 一 冊 之 後 買 入 不 持 以 五 一 又 三 切 換 取

換 取 金 五 兩 五 匁 有 一 起 三 後 三 存 存 以 七 冊

冊 一 冊 僅 存 三 冊 以 後 白 紙 所 也 不 知 其 牙

牛久保百由にも不中守在品買上は後不為

自買上取付しし品取上切取し取付

品取上取付金銀銭を以取上損失

此後盗物と有取及取付印買上取付

とのし取付金銀銭を以取上損失

多し品取上切取取付品取上取付

金銀銭を以取上損失

伊後と無縁

伊後と無縁

伊後と無縁

伊後と無縁

希谷長延寺門前

形多

伊後と無縁

伊後と無縁

右しとの後世取上取付盗物と有取上取付

と有取付しと有取付しと有取付しと有取付し

も有取付しと有取付しと有取付しと有取付し

取上取付しと有取付しと有取付しと有取付し

は後取上取付しと有取付しと有取付しと有取付し

印大有盗賊改し取上取付しと有取付しと有取付し

店名取上取付しと有取付しと有取付しと有取付し

取持びて一室を盜物と看し処を倣も不  
存いとも元位も不存との仁や者夫  
はも不中少在亦世文取持びて一は既も得  
る自費文の果上とお伺評致し上費文は  
おれ上を意交しりて中上は也世文の果上  
とと別「取中を去階不中先例有し  
取しとハ中しや「取中を看し中を果や  
渡世亦いふしともの一書と凡今後  
亦世文のとの費文の合限と別「取  
亦書と不中付先例有し前書もいふ  
取お綿費ひいとのと今渡亦費ひいと  
ハ取遣ひお不も不紀文はも不中世費  
ひ更に取も不取所倣くも亦書階  
い方の物取も亦書上いん合中文字  
いく吟味書し張るとぬ一のとえ傳  
を書階子としてのと亦書も亦えも不存  
と取とぬ一のと編惟子取の費ひい  
亦書と同人亦書階取も亦書階の取  
し費とと盜物と不存亦費ひ文の取  
とと右例「取中は取中不存

とのより其文のとも法遠の官制に  
西書之不及其文の亦其上

強改の通序

享和二年四月

拾九番

駿府町奉行

一 駿府町奉行忠務監の文一件

東海道

江府局

久八毒

ま

ん

片も不礼に至る中後合意少  
力官制の四代後、自以之和信也

右一との倭忠務候より寄る、片分古

意高の後、片無し候、其ものより、此牙

元も不礼、候、遷る、其後、因、今、片、存、在、候、世

く、片、存、在、候、世、今、片、存、在、候、世

六十七

揚代者其支以忠茂身分不取懸し衣  
類及物亦少し質入り其類志在忠茂身  
長八越其勝方口持系り不持し果し紙一或  
又し忠茂又類以多し盗品質入り多し  
其自多し申し忠茂代後内より礼  
後信六支宛若志口振身不持し身五十日  
手紙

世彼合賣中為實揚右揚代者若  
其以多し科書多し隠賣中と紛あ  
少許彼類支取財取負り御合取

此の要酒會代後と彼とを以て遠揚代  
し紙にまんり立し申す少し忠茂身を是  
五州秋の後と又久八五平と為すとのハ  
盗物と名存質入り其類以多し不持し其  
座は天明八年根倉肥前守由勘定手  
紙に其類以多し上西管中其類以多し其類  
紙百姓其類以多し彼傳其類以多し其類  
商人も存其類以多し盗物と名存其類以多し  
名は彼其類以多し其類以多し其類以多し  
少許其類以多し其類以多し其類以多し

く不し申中名に付日清為は其後以て  
不し賣拂を又も實上後石持し月實上は  
不實上以不し上代錢換て申付清  
務に賣拂を不し因人に代錢をお渡  
三十日手換申付は新例と云ふは其の  
も忠務お形衣新お持し銀申付成文  
し實上し日清以て一又も六年し以て  
礼儀居る後不實上は月例と云ふは  
手換  
但科書に因ては會て賣女を實上

揚代亦も其文以申付文を於除酒食  
代錢に取之認て申付

評紙通海

享和二年申渡 致捨七番下

火附益械改

大河内長吉清個

一 幸乃以堂屋架旭附火以与し此一件

也品川宿野丁目

家持

旗本屋

幸乃清吉仕如

よー

右しとの候所り至は金子を架旭望出

金子をくし処を候を有候いふも切有

元任所も不存との候申有且人にも不



ト可令事終り是ハ後不傳有終り是ハ  
令事終上と名受たり是ハト可令事終り是ハ  
智と名受ん

此後原旭師匠ハ信受ハ令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ

明和九年午ノノ事書有之令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ  
是ハト可令事終り是ハト可令事終り是ハ

法成通事

人之祗附以類

安永三年年譜渡

三十番

大坂町奉仍付

一泉原中筋村孫を又下中きん離縁し

又上底自山一件

过六筋右邊(由代支所

泉原大筋中筋村

店屋

孫を又下中

きん

右にその後正他を教害の候と存置候事  
左におおりの由正他を元又し後縁の事  
縁にお候お願はく候事とも正他にお隨の

六十九

七十

才分の交西他返普く仕方腹立之存心連  
自祇為負の恨不届而存心連中追放

此後吟味書之縁之をいふもの西他と更

婦之処身ノ種ハ續波難縁長之西他

任にお極りり如元更婦之りお成方甲

合きんを縁を更方上奉之出給浪之縁

西他西他に貸置おけり縁之有之西他

ハ難縁状之を以て種お分以當之連

る伺之上方取町手之んを合取紙の処難

縁之候は上之己より書面之を之を不

中候之紙中越の句論一旦難縁の多し

以由西他兼きん中候之符合仕候之也

の候之由存心連急之難縁状之を先

双方中候存心連しし以上之難縁にお

立之り候之由存心連之西他任所にお

極りり又之つ所之りお成方甲合立之り

更婦ノ縁切とゆふ中候之存心連の由之

書之密更之しし密之更之祇自の也

の引也之り獄門之有之きんを密

更之しし之り存心連の由存心連より

八怪く死四難お申この中何れも在り起す事難  
 縁ゆしは在り心は通路も不波は別  
 居は彼も在り骨又掃り後日居在り  
 との是も心自り骨は不怪方この有り  
 中時又正他心不波手金行掃りあ成  
 い彼も勿論演世し際もあ成り  
 其んも生得は甲急この言方中分  
 此し言正他中しは彼も味書り方し  
 正他とめ元波の居る方成り事記外  
 無心正し心自り彼もあ成り中分

其高例もわん中しは自本最一第  
 怪由仕直死四難も言言言追叙し由是  
 之入心怪中方の附言追叙

由是言追叙

寛政十一年申午

六十二

系於町奉行

一 姉小治和入町源家母やと離縁更公先夫は  
一 祇乃負の一件

姉小治和入町

不介源家母

離縁更公先夫の

源 氏

右の如く候更卯八分離縁更公先夫の候書は  
入るる離縁書と契約の事し主は離縁後  
きうを候更卯八分事もこの後紙風切取り  
候更卯八分候合おれり申付候事候  
宣稿懐紙所持し  
去未三月八日夜卯

八方は既契約遠く候事傳はるに故不  
申は身命印増し方先夫の候事自害害の  
致存念を以て威印八面神に依附する  
人候も祇存候印に意候は恨に申  
以の存す候印八面神に依りて候風等  
色に申すは為候も此に先夫印八面神  
其も治定に事も此に上と得て引合り申  
要は此に候印不事に印八面神自及殺害に  
白座に此に候存始末不届し申す自害害

此後去己年七月大炊政に依りて申

仕事申付は是後方村言事娘を以て治定  
事分難縁を清切推し娘をも引信候  
右再縁亦以てし候も妨礙難儀存候  
治事事を殺自害致し候事候申親三  
太事申付候事候候候候候候候候候  
膳以てし居候元夫治太事候候候候  
祇存念に始末不届事申す候事申候  
見合事申す候事

評候通候

寛政十一年辰渡

七十九番

系部町子以

曲淵和泉子個

一 因世七番町近江屋已之助又子想吾不又代由

屋浦大方向中万七之助子祓方有以一件

因野風流屋敷

天波屋市右丞信屋

近江屋信吾因居娘

見方撤違りを取りん外、石存留し、み

洋

存し、その後お孫八入事之上、此追放、お成出様

場、お右立、お信右、お密通、以、一、お在

之、上、同、人、の、集、中、と、な、り、お、孫、八、入、事、上、の、後、七



と仰るに、此の教書は、方部屋にありて、七の御を以て  
帳中、番細と記合はる承は、得て見れば、教の  
方取り、所合、存あるに、中右部屋に、此の  
御、く、と、言、あ、り、し、右、又、此、御、に、お、取、七、の、御  
番、控、七、清、へ、と、あ、る、子、息、吉、政、合、帳、付、の、御  
之、後、り、上、と、取、合、方、も、う、り、と、起、初、と、之、何、擔、心  
多、し、り、不、存、分、子、元、と、り、利、刀、持、来、り、能、以  
高、手、其、元、に、く、り、し、と、り、子、息、吉、政、の  
元、有、り、の、能、以、第、一、帳、付、同、人、在、り、子、大、指  
常、御、り、の、押、急、行、傳、因、前、お、取、の、御、合、合、り

口、辨、し、右、擔、心、し、割、武、士、方、屋、に、御、に  
り、今、留、御、に、起、の、御、方、中、の、御、子、有、り、と、り  
為、始、末、不、存、分、子、元、と、り、

此、後、非、不、得、も、所、在、し、得、方、能、以、第、一、帳、付、  
為、真、同、人、在、り、子、大、指、伸、急、行、傳、因、  
前、に、以、及、し、此、後、言、く、不、存、分、子、元、と、り、  
傳、く、と、人、之、帳、付、行、傳、に、及、り、し、と、り、  
此、定、に、見、合、同、し、返、中、追、放、

江後之通御

欠落以五—以遊女類

安永九年申渡

二拾貳番

長崎奉行宛

一 肥前長崎松浦町利吉女正太集元的一件

長崎奉行宛

門前加三吉抱負申

二紙の片

右ととの使信銀紙の用も石見信分を記

り利吉の合文屋の用一利七方の教目隠紙を申

更と讀も石見上六主人の方分石見奉行の用

修り通の合文屋の用一利七方の教目隠紙を記

長崎奉行の用紙の用も被是自信の用

中不取致之 後男 故人 分を合し 上達 改定 申  
分利 吉中 合意 又て 近き 始末 不在 申す  
主人 門庭 嘉三 吉中 引渡 申す

世後 武士 方町 方町 方町 一返り 申す  
近き 申す 於 申す 押 申す 法 人 申す 申す  
自 主人 法 人 申す 申す 申す 申す  
之 有 申す 所 定 申す 唯一 主人 申す 申す 申す

渡  
法 人 申す 申す

寛政六寅年 申渡

百番

火附 盗賊 改

長谷川 系 孫 伺

一 當時 官 前 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

源 永代 寺 門 前

八 兵衛 店

新 吉原 角 町

文 右衛門 店

右 兵衛 抱 持 申す

む 申す 申す

人 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

右 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

其 方 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

兵衛 申す 申す

遊後安永八亥年道中事仍然以味伺し上  
由吾中付山日光道中種以弟宿旅新屋破  
在處方之にお山食費如奴み後至之就  
彼處山連右務を形も連お處以方に  
系り山後右務三月十日押込甲白山合  
三十日押込之之主人白山後

評彼之直師

密通又之取持以之山新

明治九年十月

己未日

大坂町

一髪を切らば

石原清左衛門(由代)女  
持呂豊満(池田村)  
多田屋(吉原)信房  
神田市(市)三浦因家  
娘

右の如く候石原の如く石原の如く

村頭

此後百姓の娘と番地人との交渉

七十四

通以彼石印之症以百若為之例之不

お見石了以以在此人、子下

評彼之症跡

安永元末年以後

古三番

甲府勤番支配

台出雲子何

一甲長中山河東村圍於娘志ありと密通し上  
貢する及糧籍の件

志野越十市支配不

甲長山梨郡中山河東村

圍於娘

當時甲府勤番

後通書書以支配

松平越後守下中

志 下

存しとの候後支存存忠事之是山以市約本  
仕並に後母中守の不知仕の上と和助何と度  
安山通中守の旨得心仕万及山家安山會仕

以後石田貞賢を切親元とす渡

此後一件の因位者和切親元とす条中

去通結細不お跡のゆえ録該極ゆえ

冊より承ゆとの事歴公百由定に唯

賢子利親元とす渡

評談之区海

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

安永五甲年所渡 郵拾六番

大坂町奉行側

一河原新嘉多新田惣切を打擲しし一件

七場投馬市代友不

河原若江影西境村

百姓平右衛門後家

己子国形娘

刀 五

右にその後一旦惣切を離縁仕親元とす

故以後密通仕の事記し惣切打擲は通に

思後之が故以後石田貞賢の事記す度也り

け儀由定書に支分しゆと密通仕



諸引おのこの如きお返男より漢と  
有し如く西條より西條の乃別紙に上  
の五人の男と密通しつゝの類

例に見合三十日押込

評改の直涉

安永六年年中渡

郵檢口番

所印定奉行

幸宗能光子候

一 下総國親田村吉川前右衛門 寺擲 名通のり

五の一件

相平手迄在馬知所

下総西海と形八本村

次第右通の後家

以わ

右の如く候吉川前右衛門 印中と密通  
以下は候右候と云ふ所より急度此の並  
下中より旨お伺ひ候事有るに三十日押込  
しとお尋ねの仕所より上

以後能登之也而昔書于上(返)親(子)又  
之(中)也(子)之(子)也(子)之(子)也(子)之(子)也  
別(子)之(子)也(子)之(子)也(子)之(子)也  
俄(子)之(子)也(子)之(子)也(子)之(子)也

評改之通抄

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*

万永七戌年(西渡) 拾七番

大坂所(手)行(回)

一(夫)者(一)如(是)連(退)以(一)件

天(海)源(藏)所(八)幡(石)

云(云)信(信)石

大(坂)所(初)之(信)書

世(一)

夫(行)之(所)也(信)信(石)也(信)信(石)也

右(一)之(後)初(之)信(書)之(人)別(子)之(子)也(子)之(子)也

右(一)之(後)初(之)信(書)之(人)別(子)之(子)也(子)之(子)也

右(一)之(後)初(之)信(書)之(人)別(子)之(子)也(子)之(子)也

右(一)之(後)初(之)信(書)之(人)別(子)之(子)也(子)之(子)也

右(一)之(後)初(之)信(書)之(人)別(子)之(子)也(子)之(子)也

七十八

免後司人分應恤為成公建公處任佑仰至取  
才至急事於此所織居以股右局市准芳故至利  
親給官亦復

批發一付自佑仰至自和一既之而應公召

引次例見合十字免彼地托如所一年

季子限為取至

注發一而辨

例

石河古依對然

年込改代所

去已第了店

市右邊門也房

志乃人

寬保三亥年

本多中勢大輝後市房也

石之乃人做之於保是亥年七月分信無湯後

密通之南二月十日之夜市右邊門方之改家也

差清方上居紙又師之國后以股右局也也

死罪之戸月以於元来常中与市场不  
均之知未言少房之... 市市... 後之放  
均之仁形... 看... 新... 那  
年... 守限内... 取...

...

步乘七戌年... 羅... 番

大坂町...

一寺持... 僧... 年... 寺... 押... 与... 不... 義... 以... 為... 寺... 家  
為... 改... 以... 件

青木楠... 市代友所  
梅沢西... 杉根... 津村  
播磨... 仁... 信... 局  
河野... 道... 仙... 事

如... 押... 与... 不... 義... 以... 為... 寺... 家

右... 之... 儀... 於... 西... 寺... 縁... 養... 於... 於... 以... 均  
心... 後... 一... 以... 均... 凡... 均... 後... 及... 換... 抄... 不... 義... 以... 均  
心... 後... 一... 以... 均... 凡... 均... 後... 及... 換... 抄... 不... 義... 以... 均  
心... 後... 一... 以... 均... 凡... 均... 後... 及... 換... 抄... 不... 義... 以... 均

又道仙は是の用人は是清少俊之而座は為怪  
長教

被儀又は是等斗之等は是初方

は頼子等し取持心多し是又道仙

因取中進教

以後は通流

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

天明二寅年正月

西曆

諸府町奉行宛

一水野澤の組と力近着字右邊の石持し取斗心  
多し一件

諸府町奉行宛

水野澤の組と力

近着字右邊の石持

他は是等と密通ししもの

丁 七

右にその儀は和布密通一件は石持之而

も是等の儀は是等力右に石持之而

要仰儀等力用命は諸府町奉行に是等

是等し諸府町奉行に候は是等由是等

りや主人に在る者なりは此書は自筆下して  
是書田名五所目信あり引渡

は後所定書に他之家来又所人亦下かを密通

ひし忍入の男を江戸に引渡す人の心は男を

渡すもしは愛を有る方力在石田要中を密通

ひし忍入の男を江戸に引渡す人の心は男を

を事たはる夫し子に月半帯力方なり因十

一月下旬迄通ふし君の身はいつし一あり

右邊留中は在る者なり方主人用向る要

二助あり泊るに在る密通ししは是の

と忍入の男との密通しは此書は自筆下

か下男に密通し人ら引渡を人となし

所定書に一人の引渡を一人の引渡す可

有る書は自筆下は是の密通しは此書は自筆下

有る書は自筆下は是の密通しは此書は自筆下

有る書は自筆下は是の密通しは此書は自筆下

渡

評後し通海

天明七年由渡

三核之番

櫻奉行伺

一 小兒死骸を拾ひての希又捨仕との一併

一 丈在場ノ妹居す彼源井北村百姓ノ男信

ハ之密會以テハ後石塔身名度以テ其の

ハ後吟味書系書ノ一云

拙儀申定書之史等ノカミ密通以テ諸行

おはとのカミ乃お近男分ハ漢之をくげとのハ

諸行おおはとのハ江ノ親ノ子希有兵

とのるをきりしハ因密通以テハ

後在橋之西原管伺之通名之役也

江波之通名

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政元酉年沙渡 三拾五番

大坂町新町

一人遠之池に賽ふあり死骸不詳お大森以  
しし一件

友人と密遊にしし事

一 百程を湯下女ぬい事暫く候ありし以て其初  
發を右馬に密遊にしし事後移又源仰有  
密遊にしし以候事候由座に於六月三日曲  
例申被了りし限伺へし由替り自以下総出首飾  
郡大橋村新町妙房之川候傍に東下之



密通して一飛鳥是因人等房もろく連北  
 中房を改置せしむ又と書出と家通等し  
 之上中六と對し布子貸借し候より  
 起りに論ひしし候不候と可し時月急  
 此の急例も西暦等ぬに候候候急度此り  
 評候し直御

寛政三亥年申渡 右拾六番

大坂町奉行  
 相平貞守御

一 菱時常者と市役西子津新地等目録等結  
 あり及及口論互病文二件

西高津新地八丁目

陸奥七帝三房支配信屋

坂屋あり常中房

夫等知の上候五身賣候し  
 居候内余人とお別保候  
 候しと底有候との

中よ さ

右のと候夫あり常者貞守御等と

候身賣候し居候と市役等お別保候

人等随ひり母等辨言方より候と成候候

今乃福多矣窮之血其女其傷未離別  
お對も不及市市之随ひ出女以て一刺あ痛  
手紙負ひ山及仕候に候まゝ石原と極舟  
死罪に下付の存然亦し母多傷を負實窮  
大世之の母并伴養育し子安も程に感涙  
立身業をも為仕ゆ事起り一返り家出更  
しは夫御中候しおものおまゝとのも可  
まゝに申すも清

世後味書し候まゝ市市を伴  
此の世との母并え夫と伴其三月も石原

市市と存市市と随ひ出候しは候に  
又もゝ身多し志密返男女も市定と死罪  
この市市屋の夫安も傷の白くは身業の  
流し候月一付内市市は月安の例内市市  
申し申房と申ん身伊多傷と密返し  
市市の方と流家お伊多傷方は居候又婦  
成居は後石原と極舟死罪に申付候ども  
元来安女と市市と石原と始末と申房  
と申しと市市と候も放場し仕形有  
い月新吉原町十年季長浪が長を以候

例之是合被地控方町半季限為取立

武八抄房

寛政五年涉渡

十一番

駿府町奉行

一 駿府御所武八盜心しし二件

駿府御所

七番三番店

武八抄房

親之御所御所奉行武八抄房

さ よ

右之どの御武八盜心しし始末ハ不存也

中之以は方去上園年高致者上之是之御武八抄房

御武八抄房吉原番之御武八抄房

坊之御武八抄房之御武八抄房

御武八抄房之御武八抄房

冊てふ引渡

冊後又武八盗つての如き不存候石を付

石留と云ふは引渡してふも不存候石を付

与武八と又押して成り候石を付

以石留と云ふは引渡してふも不存候石を付

とも冊てふ引渡

証候し直候

寛政六寅年申渡

以拾取番

長湯寺の御

一 肥前國身福寺塔頭地林屋元着坊園宗候

石留一玉斗一玉斗一玉斗

阿宗院通領御等名

長湯寺御所

田中元左衛門元中房

長湯寺御所

孫之市方上居候

出家と密會してしむる

石と云ふは引渡してふも不存候石を付

年以奉密會してしむる

密會と云ふは引渡してふも不存候石を付

寺社奉行 延享二年四月 何人合伺 返

三十日押込

評級し直請

寛政九年四月

系野町奉行

菅沼下野奉行

一 城員園崎村形取を真定実神に法取付取

件

三十一番

尾丸屋條上向

演屋赤言浦信泉

研屋三井長常書

み 王

お家と密會せしむる

若くとの候研屋三井長常書にお成り

等といふ中直定実密會し候中是の通請借

し候と存候知りて一 おくは密會し候事不

情と月日取付十日押込

八十六

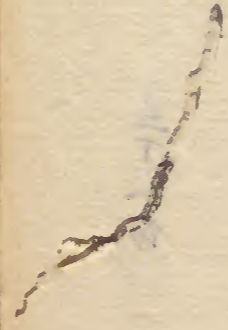
大儀菅沼中野等所より上り高野ヶ峯光悦

町赤石屋達公儀信房いそご合振儀

もお足下より官儀し海西十日押込

評教七海湖

寛政十一年  
池田推治  
一



寛政十一年  
池田推治

大附益職改

池田推治

一 官者角左衛門 治大以し此件

お辰言彦助

下古尾村

市左衛門 治大

くめ娘

と川

ゆふに後を押しお辰より言ふと

右との儀お保村親を分国道よりし此後

りい奉申角左衛門 愛不義中子より威し

付山左衛門をより市左衛門もお合具のりとも

此よりお辰よりお辰と存し餘を不義

し如きかもししをほもなく難儀なりし不致  
中を為大いんを不致ゆる中し如き太神と始  
未より又長岳湯にもう中野処を我も仙遊  
し運石嶺を修せしは直に此坂に坊よ付中

日押也

此後又者し中野人等しは押す不致ゆと  
しいそのし市定は者しはゆん石切し中定  
は古由生はとの後山道よ去惣角と東  
不致すをせし感といは付分し程中  
うね成ゆと云候要石嶺及始末ゆ我も初

大御方の連ま石不中岡迄も不致ゆ者し  
去る五年根尾紀常子と根尾くし中野中  
付の上良多岡村を七中房みなり我妻中  
と家通ゆししは我も去とゆは妻安我  
去し家通すをゆりて中野又を七中野  
中野処にす中野ゆりて中野にす妻安と  
か會ゆ我はんゆり有る名のにす中野は後  
不致ゆ自志安也りし直に新橋に口合  
張意を口合す身志安也り

評伝と通評

寛政十年年中渡

三十八

甲府勤番支院

近友渡路守因

一 寄着久次監以しし一件

常陸國新治郡貝塚村

友右衛門

寄着安五郎女房

寄着と存密通ししもの

三 世

右しとの寄安五郎通りし書状と存し給大

見市を寄方久次以しし寄着と存安五郎

と更婦、或は版石場舟通拂

此等更婦、如く密通しし書引出し給



その由定かたは為抄後ゆと有く由書に  
由書あり形跡跡不し概細ゆし由書  
人無りゆしゆ後もゆしゆゆゆゆゆ  
節もゆしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

後身門前掛

評後と直休

寛政工未年由書  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

寛政工未年由書

ゆゆゆゆ

佐渡事初回

一 佐渡小倉村久勢盗ゆゆし吟味中宇振ゆゆ  
ゆゆゆ

佐渡難を助小倉村

武吉勇娘

三 ぬ

宇振ゆゆしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

存しとの後小倉村久勢ゆゆ年来固し居七月

昔夜久勢ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆ後身門前掛日教二十日子候

は後身録書し流書と為り密通ゆゆゆゆ

ゆゆ後身録書しゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

連密令以しし三海より候押色在在

との市庄に去る成年一庄より候し之由

中自は横山町屋富山日屋儀其富安房流

孫義又儀其富安房有る身子種立存

大落りしし以候意ハ不存以候方是也

よ好まじし如き事候者候也此更

い候といはる申候是立居候に候是儀

中候後人にも不申候押原在立候是儀

身平目押込申付候は合其意と立

居候は是等儀候はしし候は不恒以候是

候を押原に立候者候に候は不存分

不存分候候は是等儀候は是等

候は身例目候二十日押込

江後と海流

寛政土未年出渡

六拾五歳

佐渡守以烟

一佐渡守町知事より新海守に記しし一件

佐州龍を郡相川野下目

市市古蘭姉

知事と密に言ひし所の

のふ

右一との佐渡守より抱因之居以辰有傳し

身髪を利兄市市古蘭姉に渡

拙書吟味書し張るる親言を新海守に列

合す因に立入密會ひて一旦引拂以海

も亦く存越しとの身言るる年牧野佐書

も仕事仍舊伺し上水船中舟の上総兵部尉

新米名村次衛門其の後子福吉如是なり

密會より是の事出家し其の一旦及以の如

有御知りしに夜新洗濯物に紅天線其

後身より其の事あり其の御存心は如昔なり

其六年より其の密會よりし其後其御存

三十日押込申す其の御存心は三十日押込

評改と直供

因り小六町

久吉所海菜

さし

密會より其の事ありしに其の

右の事其の御存心と御存心より其の御存心

いのか宿貸其の御存心より其の御存心

為立入りより其の御存心より其の御存心

節におあり其の御存心より其の御存心

い俄去り其の御存心より其の御存心

い浅き其の御存心より其の御存心

女房たう其の御存心より其の御存心

返り其の御存心より其の御存心

鳴り其の御存心より其の御存心

犯す其の御存心より其の御存心

後天保を以りて其の般不為三月十日押込

ナ有い例見合指所不恒由性以官例

海と名取也り

評議之趣跡

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政十一年申渡 三拾三番

大泊益械改

品形内記付

一 當時官取及跡火以し以一件

上総國夷隅郡植柳村

百姓

市野左衛門海部

乙 女

右との儀取及石儀等一見録に記す

以の折々所不世信及石在又の龜石等石

不取等一以月取取道後右を言恨存以補

宅上石歩等一或も跡即宅の跡火以し以

始未成早言生身持不直故之安而留之  
付三十日之頃

將後去己年三月五日

其後之上而替甲自以元田府庁所之在在の定

公命存取むめ安密海之安実之甲子公定

此家く身分の由りて此の所か外に之を儀務

之人より由元之強之改以運送為以一人

一 陸の事一密言以し以始未不悛

一 陸の事一密言以し以始未不悛

一 陸の事一密言以し以始未不悛

一 陸の事一密言以し以始未不悛

寛政三申年丙辰 百九番

所より根原肥前守同

一 那系川右利衛在長五郎方之居に在る重吉

密言以し以一件

新吉系系町町目

若十郎居

不立改之難取との以給夫下 表三市抱持也

右ととの養父勇吉生息江良之老父有く見

も病身より抱持し居り届候身此所停舞未

官不彼地に在候而右に強し人連も立改は

候と在奉り候身保不立改は之難取との

均勝の公家所奉行付以候申出立以し

好養娘が果敢と昇山柳屋に帝より帝り彼是  
刀を附勇吉方より一便も無く月宮女子不立  
彼候との旨に帝より密返しと事ありし  
之好ゆんとして控方と事あるは候に御勇吉  
離別するは候と云はれ候うの事持て又云  
候右始末おもひ候石屋より追放

以候是勇吉離縁候中云は方記前事  
候是中上例書し加ふより八品位  
是は若何と世に直り候  
任候と通候

享和元年丙辰

早記番

駿府町奉行目

一 駿河志之助が枝宿本町志之助が家たけ方之展  
是之帝原の根拠は件

本多孝前も候  
駿河志之助が枝宿  
本町志之助が  
たけ方之展  
是之帝原

是云々分親と云ふも事なりと事なり  
又いふ所ありしと事なり  
又いふ所ありしと事なり

右之と云は候十年程以前高代は所か事云は  
世話人も各親元にも懇後不致お對を云  
三帝与是候と云候之上是之帝か奇活親元

立改行後三事ハ行遂テ中ノ家カビト

山傳打込始末事ヲ得テ身志安也

此後石部三月間ニ遊藝安也

評後ニ返泳

*[Faint, mostly illegible handwritten text]*

享和元年申渡

古拾二番

岡東殿代

中川元潭子同

一 政員部系川高梅仰事安也常女御又八持

妻心女一ハ一併

佐竹毒子系来

徳士

飯沼守右衛門娘

密通ハトシテ合欠後以テ

子 女

又ハ余人と密通ハトシテ

右ノ之の依テ穩伊ハト密通トシテ合家

カ以テしテ又品川省令三事ト密通第

以候事候ト至不巧ノ月二十日押込

此後此仕並附テ古例ニ見合急度也



二おきりて申すは乃大佐士以上へ娘へ

身分何へ過之十日押込

証候へ過淋



